

昭和四十七年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會

目次

日	時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	行政一般質問	渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	流山源次郎君の質問、当局の応答	石井武敏君の質問、当局の応答	辻田実君の質問、当局の応答	君塚喜三君の質問、当局の応答	林豊君の質問、当局の応答	散会	本日の会議に付した事件
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	九	一七	二六	三八	四四	四九	四九

一、昭和四十七年十二月十四日（木曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 三十名

一	番	吉田 勇治郎	二	番	林 豊
三	番	流山 源次郎	四	番	鈴木 木
五	番	近藤 好雄	六	番	栗原 一雄
七	番	渡辺 昭夫	八	番	石井 武敏
九	番	辻田 実	〇	番	渡辺 軍治郎
一	番	山本 昇	一	番	藤田 益治
三	番	五十嵐 昇	四	番	伊賀 多朗
五	番	和田 一郎	六	番	辻井 謹爾
七	番	宮野 敏朗	八	番	安西 益男
九	番	島野 茂樹郎	〇	番	君塚 喜三
一	番	鈴木 市蔵	二	番	田村 源治郎
二	番	菊井 敏博	二	番	西村 真次
三	番	安沢 徳順	二	番	飯田 義男
五	番	望月 照正	二	番	田中 禄郎
七	番	望月 照正	八	番	田中 禄郎
九	番	秋山 六三郎	三	〇	番 遠山 ヨネ子

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和四十七年十二月十四日午前十時開議

日程第一 行政一般質問

開

議 午前十時六分開議

○議長（吉田勇治郎君）

本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般質問

○議長（吉田勇治郎君）

日程第一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の十二月十日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行ないます。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。一〇番議員渡辺軍治郎君。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、次の二点について質問いたします。

第一は、九月の議会で明らかになった高令者医療費の市費負担分を、保険税の値上げで市民に転嫁した問題についてですが、九月議会で、保健課長の説明では、高令者医療給付金は国保の給付

改善事業ということで、国保会計の中で財政措置したということですが、県は七十歳以上の高令者医療費の無料化を実施している市町村に対して、二分の一の補助をする。財政措置としては国保の給付改善事業として行なうということで、国保と社会保険の医療給付を区別し、社保を補助の対象から除いたものと思います。

館山市の場合は、高令者医療給付を社保も国保も含めて条例で実施しておりますので、社保は市費で負担し、国保は市費で負担しないということになりますと、条例に違反することになり、地方財政法第二十七条の四の「市町村の負担に属するものとされている経費で政令で定めるものについて、住民に対し直接であると間接であるとを問わず、その負担を転嫁してはならない。」という地方財政法の規定にも違反します。また法のもとに平等であるという憲法の精神にも反しています。

したがって、国保関係の市費負担分九百二十九万九千円を一般会計から国保会計に繰り出し措置するのが妥当と考えますが、この繰り出しがないまま、すでに保険税は六月に二割八分も大幅に値上げされております。これが九月議会で問題になり、市長は善処すると回答しておりますが、どのように善処するのか。お伺いします。

第二は、排水路の整備についてですが、九月二十五日の全員協議会で、九月十五日の集中豪雨に対する被害の報告があり、引き続き議会で被害の復旧のための追加予算が審議されましたが、その際緊急を要する問題として被害を未然に防ぐために、排水路の整備についての要望が出されました。

水害がおもに発生する地域は、汐入川、境川と平久里川の間に

横断する上部、中央、鉄道線路の上下の排水路の流域となっており、すでに本年度実施するより予算化されているところもありますが、水路をふさいでいる中央排水路の歩道橋の橋脚や、境川上流のしゅんせつ等県の事業としていつ実施するのかははっきりしないところもあります。

災害は忘れた頃にやってくるといわれているように、いつくるかわかりません。この際実施計画を明らかにし、いそいで着工すべきだと考えます。着工が遅れて水害が発生した場合は、当然市の責任が問われることとなりますので、被害者の損害に対して市は完全補償をしなければならないと思いますがどうか。お伺いします。以上で質問を終わります。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 通告による六名の方々に對する答弁を私から申し上げたいと存じますが、くわしいこと等につきましては、場合によりますと、関係課長をして申し上げますので、その点をあらかじめ御了承を願いたいと思います。

ただいま、渡辺議員さんからの高令者医療費についての負担について、この前渡辺さんからいろいろ御説明がありまして、それに基づきましてその日に協議会が行なわれたわけでございますが、その結果渡辺さんの御意見に対して議員の皆さま方も私は御賛同のように受け取ったわけでございますから、その意思を尊重いたしまして市一般財政からその部分を支払ってまいりたいと思っておりますが、まあこれは結局出納閉鎖期、五月ですかまでに最終的には行ないたいと思っておりますが、なかなか高令者の医療費というものは最近非常に利用が多くて相当額に達しておりますが、こ

れは健康増進上から早期に治療することは非常に私は望ましいことと思ひますが、なかなか財政のやりくりについて苦慮しておりますが、渡辺さんのおっしゃる線でこれはやりますから、この点御了承願ひます。

それから、道路の工事が遅れておる関係から、市民に被害を及ぼした場合の損害を市が持つか、こういうようなことのように受け取つたんですが、九月十五日の集中豪雨によりまして突然の工事がふえたわけでございまして、それは大体近く終るわけでございまして、予定どおりの計画によつて排水路を整備をいたしたいと考えております。

現在の情勢ですと、北条地区あたりの海岸の低いところは、海面よりも低いという面もあるし、大体非常に流れが緩慢ですね。

ですから、今のままではいけませんから、今度計画された排水方法を計画されておりますから、これを早く実施してそうして被害のないように対処をいたしたいと考えておりますが、現状における工事を施行するについての普通の被害に対しては見舞金制度があるわけですが、大きな天災による集中豪雨でえらい被害を受けたというような場合には議会にはかりまして、その時点でこれは住民に補償すべきかどうかを御相談をして、その点についてはやめてまいりたいと思ひますが、現在の情勢下におけるそういうものに対しては市が被害を補償することは考えておりませんので、御了承願ひたいと思ひます。以上でございします。

○一〇番(渡辺軍治郎君) ただいま、市長さんの答弁で、老人医療の国保負担分について一般財源から支払っていきたいというお話しですが、これは一般会計から国保へ繰り出すということだと

思いますが、そのように理解してよろしいかどうか。

それから、出納閉鎖期にそれをやるというておりますが、すでに国保税が六月の段階で二・八%値上げされているんですが、この値上げされた分は大体国民保険の老人医療費の負担分としては予算書で九百二十九万九千円あるわけですが、これを六月修正段階で率に直すと大体五・三%こういう率になり、これは当然保険税を五・三%値下げしなければならぬと思うんですが、その点はどういうふうにお考えになっているのか。

○保健課長（網島憲治君） 私のはうからお答えをいたします。

現在の医療費の動向がたいへん異常な増加を示しているわけでございます。それで、六月の本算定時におきまして、私も概算で大体二千四百万程度の歳出の減をするお話しを申し上げてあるわけでございますけれども、それに従って保険税の値上げが当初計画いたしましたものよりも下ったわけでございます。

現在の医療費の動向と申しますと、前年対比で申しまして約三三%の上昇を示しております。したがって、現段階では国保会計全般の問題として考えていかなければならないのではないだろうか。このように考えております。まして、現在のところ医療費は七カ月分しか判明をいたしておりません。

したがって、今後現在の情勢がこのまま続くとすれば九百何十万という繰り入れをしてもなおかつ不足をする見込みでございますので、年度末国保会計全体の問題として御処置を願わなければならぬ。このように考えておりますので、既定の保険税をさらにその分値下げをするということは考えておりません。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明はおかしいと思うんで

す。私は現在のことを聞いておるわけではないんです。

これは、当初予算で九百二十九万九千円は、当然一般会計から繰り出すべきものであつて、繰り出された中で保険税が改定されてはいないわけです。だから、あとで繰り出すとしても、すでに値上げされている保険税、国保分の市費負担分は当然これは値下げしたその上で、現時点でのいろいろの給付の増加に対する是正措置というものは当然やられていいと思うんですが、それはあくまでも現在の問題であつて、これは過去の問題であるわけです。

すでに、これは当然一般会計から繰り出すべきものを繰り出さないために、保険税の値上げでまかなつたわけです。その分は四月にさかのぼつて四十七年度の予算の中で措置さるべきものだ。そういうふうに考えますので、今の保健課長の説明では納得できません。

○保健課長（網島憲治君） 確かに理論の上からいえばおっしゃるとおりだと思ひます。

しからば、九百万仮りに差し引きしましても、当然その措置はしなければならぬわけです。したがって、その財政的な処置と申しますのは、当然もし仮りにそういうものは理論的につめていきますれば、医療費が高くなれば当然被保険者の負担並びに国庫負担あるいは市の一般会計からの繰り入れ、この三つの処置によつて財政処置をせざるを得ないわけです。

したがって、これは渡辺議員さんのほうでは当然一般会計から負担すべきだ。こういう考え方の前提に立ちますと、そのような議論にもならぬかと思ひますけれども、本来的には、これは被保険者の負担と国庫負担金それに理論的に申しますならば、一

般会計からの繰り入れを容認されているものについて繰り入れをして措置をする。これが原則でございます。

したがいまして、もし五%現時点になって引き下げるとすればさらにそれでは医療費の増大分について一〇%なり、一五%なりを、その医療費に見合った額をさらに被保険者から徴収するということになるかと思ひますので、現時点では出納閉鎖期に至ってそういう措置をしてまいりたい。こういうふうに考えたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　そうしますと、市長さんが一般会計から支払うことを認めているわけですから、当然一般会計から九百二十九万九千円というものは、繰り出された分がそれが結局保険税から差し引かれるということになると考えますが、ただその取り扱いについてはっきり区別してやってもらいたいと思ひます。これは当然さかのぼってのことですから、そのへんははっきりさせてその上でその後医療費の増加による値上げ分も当然出てくると思ひますが、そこらのけじめをはっきりしないと、この問題がうやむやになると思ひますので、そういう点ははっきりさせていただけますかどうか。

○保健課長（網島憲治君）　当然そのような措置になろうかと思ひます。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　次は、排水路の問題ですが、これはこの前の集中豪雨のあつたときに、かなり問題が提起されました。その中で、大体この修理をすれば上部と中央排水路と鉄道線路の上下というふうに、かなり水害の起こる地域というものがはっきりしているわけです。

その中で、予算化されているての字のところから汐入川にいく排水路は、これは予算化されているということを土木課長の前回答されておりますが、また上部排水路のほうは圃場整備との関係で耕地整理するということの中でやるということがいわれておりますが、耕地整理を待っていていつできるのかわからないような状態では、災害がいつ起こるかかわからないので、そういう点は市のほうで計画を組んで大体設計もできていると思ひますが、それを早めてもらうということ。

それからもう一つ、いつも問題になる歩道橋の橋脚が中央排水路の水路をふさいでいるという、こういう問題についてもやりますといつてもいつやるのか。そういうことがはっきりしないわけです。毎年中央排水路のしゅんせつをするというようなことをいってこの前答えておりますが、本年度やつたような記憶はありません。毎年やるというようなことをいって、それがやはり怠られている。こういうようなことで排水路の整備が遅れますと、いつまた大雨が降るかかわからない。大雨が降れば当然そこに水害が起こってくる。これに対する補償はやらないと、考えていないというような答弁ですが、当然市がやるべきことを怠ってやらない場合に生じた水害に対しては市の責任である。これは天災でも何でもない、市がやらないためにそういう水害が起これるとすれば、これは市の責任として考えるならば、当然それによって起こつた被害に対しては完全に補償するのが当然だと思ひます。そういう考え方についてまだ納得できませんので、答弁してもらいたい。

○助役（畠山　伝君）　館山市もいろいろ地形的にも非常に低地帯があるわけでございます。それにつきまして、地域の住民の要望

に従いましてコンクリートの側溝をつくるというふうな方にしまして逐次やっているとありますが、一応ての字の關係と、それから鉄道線路のあれにつきましては、年内中にこれを設計、十分できるようになっておりますので、でき次第にいたしたいと思いますが、というふうなことで、できるだけ排水をよくするようになっています、住民の方に御迷惑を与えないように努力してまいるつもりでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 一つ伺っておきたいのは、先ほど水害がいつ出たかわからないんですが、そういう市の計画したことがやられないうちに水害が起こった場合には、市の責任として完全補償する必要があると思うんです。その点についてどう考えているか。

これは、ほかの事例ですけれども、たとえば山から石が落ちてきて、その石が頭に当たって死んだという場合、その山の管理者に責任があるということで補償している例があるわけです。そういう点から考えて当然市がやるべきものを怠って水害が発生した場合には、単なる見舞金程度のものでなくて、完全に補償する責任があると思うんですが、その点はどうか。はっきりさせてもらいたい。

〇市長（本間 謙君） たとえばですね。市が川をせきとめる必要があつて工事をおこして、それが水がいっぱいになったとき、洪水になって近所の家屋を流失したというふうな場合とか、たとえば宅地造成でいろいろ山林を切り開いたりして、排水路なんかできていないでがけくずれしたとか、あるいは水がいっぱい一本のなんに押し寄せて被害を及ぼしたとか、市の責任において工

事を進めておる場合においては、私は市が責任を持つべきだと思いますが、ただ単に、現状において、将来いろいろ問題がありまされども、現状においての場合のときには、その状況によつてですね。一がいにすべてを市が責任を持つというとはいいえないんですが、それは、土地の全くだれがみても市が被害を持つべきだということであればやらなくちゃならないと思います。

普通の場合には、市の直接の責任において行なつた工事やなんかのために損害を住民に及ぼした場合には、これは補償しなくちゃならないと思いますが、その他の場合は、普通は責任を持つというわけにはまいらない。こういうふうに考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） この前の集中豪雨というふうなときは三〇〇ミリという今までにないような、そういうある程度天災的なそういう面がかなり強かつたわけですが、しかし考えてみると、たとえば中央排水路の場合にはヘドロが相当たまって、今でも路面から一尺ぐらゐのところまでたまってあるわけです。

こういうようなものは、毎年市がやることになっておると、この前衛生課長補佐が答えているんですが、今年あたりやってないですね。毎年状況に応じてやっておるということをいっておりながら、やっておれば被害は最少に食いとめることができたと思うんです。

また、路面をふさいでおる歩道橋の橋脚にしても、県のほうに要請してあれを早く取り除いてもらうようにするというようなことをいっても、それがやられないために水害が大きくなっておる。あんなに大きな雨が降らなくても、今大体水害の起こる地域とすれば、あの中央排水路の上のほう、それから市民センターから南

町に流れるあの流域、そういうようなところではちょいちょい起こっているわけです。ふだんでも。これは当然市がやるべきことをやらないために、そういう被害が起こるわけです。

そういうことに対しては単なる見舞金ではなしに、たとえば床上浸水すればたみがえする費用とか、そういうものに対する完全補償は当然すべきだと思ひます。天災のことをいっておるのではなくて、これはむしろ人災であるわけです。やるべきことをやれば被害を最小に食いとめることができるんですが、やらないわけです。そこに人災が出てくるわけです。人災については当然市の責任でありますから、市が完全補償する責任があると思ひます。市長さんは一般的なことをいっておりますけれども、これは当然市の責任の所在を明らかにして、その上で処置してもらいたいと思ひますが、そういう点についてはもう少しはっきりさしてもらいたいと思ひます。

○市長（本間 譲君） 渡辺さんのおっしゃることもわからないわけでもございませんけれども、市の責任においてということがなかなかむずかしいですね。すべてが市の責任ともいえない面もある。また責任がある場合もあると思ひますが、ここで、こういうものはこうだということはいきれないと思ひますけれども、私は通常の場合においては、そういう責任を持つということはいきれないと思ひますが、状況によってですね。

ここではひどいんだということであれば、その時点において考えて、とにかく市民ですからね。やはり市民のためにも多少無理でも補償すべきものは補償するということでもいいと思ひますが、ここで、これだからこうだ。あれだからこうだといきれない

いわけでございます。その点御了承願って、決して市民にこちらが責任があつても知らないんだというようなことは決して考えておりませんから、そこがちょっとむずかしい点でございますが、おっしゃる点はよくわかりますよ。とにかくこれじゃひどいんだ。これじゃ補償しなくちゃいけないという点があれば、それはやろ。こういうことでお考えおきをいただきたいと思ひます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） たとえば、中央排水路の問題です。これはヘドロをしゃんせつするといふようなことをいっておつてやらないわけですよ。

やらないうちに水害が起こつた場合には、当然市の責任があると思ひます。そういうことを、具体的に何をいっておるの、たとえば、排水路をふさいでいるあの橋脚の問題でも、県に要請してやるといつてもいつやるかわからない。そういうときに水害が起こつた場合に、当然その責任がはっきりしているわけですから、そういうことをいっておるわけです。

一般的なことではなしに、具体的に今からでもそういうことを予想される。あんな大きな雨でなくても、たまたま大きな雨が降れば、あそこがはらんして床上浸水を起こすということが予想されているにもかかわらず、そういうことが、そういうことに対する市としての措置がやられてないとすれば、当然責任がそこにあると思ひます。そういうことをいっておるわけです。

○市長（本間 譲君） 被害の状況によりまして、市のほうでは見舞金制度がございまして、床上浸水あるいは床上浸水等についてはそれぞれ見舞金を差し上げておるし、なお今のような補償も状況によつては差し上げたい。基本的には見舞金制度は現在ござい

ますので、それを行なっていきたい。こういうふうに考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 私は見舞金制度のことを聞いていますけれども、これはないですね。見舞金制度のあることも知っておりますが、この前の集中豪雨のときの見舞にしても、大体一戸当たり生活保護者を除いては三千円と毛布一枚というような程度で、これは床上浸水で畳を全部ぬらしたというようなことで、畳がえをしているところは何万もかかっているわけですね。

しかし、この前の集中豪雨は天災的な面もかなりあるので、そういう点は市の責任ということはある程度考えられるとしても、ちょっと大きな雨が降れば中央排水路と南町の下畑の上のほうの排水路では、床上浸水あるいは床上浸水というのが起こる危険性が当然あるので、そういうことに対して市のほうがいっこうやろうとしてないということでそこで責任を追及されているわけですからもし完全補償をするというようになれば、やっぱりそういうことが起こらないように、早くやるようなことを手だてとしては考えられると思います。

その点の責任がはっきりしないから、いつまでたってもほうっておこうというようなことだったら、大きなまた雨が降れば、また被害が起こることとはわかるわけですよ。そういう予想されるところに對して市がやらない場合に、市が補償の責任があるということをおいておるわけですから、その点ははっきりさせてもらいたいわけです。

〇市長（本間 謙君） 市の責任であることがはっきりすれば、もちろんこれは補償するわけですが、いづれにしても今後

いろいろな事情がございましょうが、計画されておる排水路については早急に実現して、市民の皆さまに御迷惑をかけないように督励してやろうと思いますから御了承願います。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市長は、その都度考えるというふうなことです。が、所轄の課長は、今いった中央排水路のどぶさらい、これはどぶさらいでも道路が舗装されていないために、またすぐ埋まるというふうなことになるので、あそこの中央排水路の道路の舗装とどぶさらい。それから橋脚の取り除き、これは県のほうの所管になると思うんですが、それと境川の上流のほうが埋まっています。水はけがわるくなっています、このしゅんせつというふうなことは土木課長はやるというふうなこともいっておりますが、いつやるのか。その点も一つははっきりしてもらいたいと思います。

〇土木課長（飯田治男君） 舗装につきましては本年度内で実施する予定になっております。

それから、境川につきましては、これは県の重要河川になっておりますので、私どものほうも県に再三改良の要望はいたしております。

それから、橋脚につきましても、私どものほうと交通課のほうで県の土木事務所にも再三要望いたしまして、なにか来年度の予算で直すということをお伺っております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） どぶさらいのほうは。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） 渡辺議員さんのいわれる中央排水路は今年も部分的にはございますけれども行ないました。それから、鉄道線路脇のところの排水路も行なっております。

が、来年度も定期的に行なうつもりでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 今までやっていても、やったと思われるようにたまっているわけです。だから、部分的にやるのではなしに全面的にやらなければ排水路というものは流れないのがあると思いますから、やったとしても元北条小学校、あそこの幼稚園ですか、あの付近はほんの道路からこれぐらいしか今すいてないんです。ほんとこんなヘドロがたまっていますから、ああいうものをさらわないから水が流れないで、上のほうで床上浸水を起こす。こういうふうになっておりますから、そういう点をやるにしても本年度あたりやったような形跡をみたあれがないんですが、そういうような点で、もし水害が起こったとすれば、当然これは市の責任になるわけですから、そういう点ははっきりさせてやってもらいたい。

それから、ほかの先ほど説明の中であげました主要な排水路については早く手を打ってですね。これは八幡のほうは、あそこに市道に編入された道路の改良事業と側溝というようなことをいってありますが、側溝だけでなしに、側溝をつくったその水が汐入川にはけるような、そういう措置をしないと、これは排水路にならないわけです。そういう点については、土木課長はどういうふうに考えていますか。

〇土木課長（飯田治男君） 八幡の改良の側溝の排水につきましては、現在あの昔の農業用の用排水がございます。これを日東交通の整備工場の脇から富士の前の川に落ちておる水路でございます。これを一応来年度私のほうでは改良する予定で予算要望してございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 線路の下のはうですか。

〇土木課長（飯田治男君） 線路の下でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 終ります。

〇議長（吉田勇治郎君） 渡辺議員君の質問を終わしまして、次流山源次郎君。

（三番議員流山源次郎君登壇）（拍手）

〇三番（流山源次郎君） 私は、水産関係におけるところの件を二件、それから市の土木課及びそれに対する予算の件、三件を通告質問いたします。

ある日突然ということばがございますが、私どもといましては、地元漁協が全然知らないうちに公用廃止になり、漁港の一面が払い下げになったという件について、その内容がわかっておりましてら御説明をお願いいたします。

現在、日本全国どこにいきましても、三種漁港のところに材木、マグロにあらずして材木がごろごろがっておるといところは、日本全国どこにもないのでありますが、そういった事態になりましたので、市といまして事情のわかり次第の説明をお願いいたします。

それから、市の水産行政についてでございますが、市といましては、水産課をつくりましてノリの養殖、クルマエビの放流等によってわれわれ漁民としても相当なる施策をしていただいたことに対しては非常に感謝しておりますが、市として館山の中心漁業であるあぐり網が年間館山湾に蓄養しておりますところの水揚げが十億以上の水揚げというものがありまして、それに対して、その漁船が館山から食料品、燃油そういうものが仕込むも

のは莫大なる金額でございます。さらにそれに対して船の従業員が館山市に落す資金というものは非常に大きな金額でございます、総合しますと二十億というものが館山に投下されておるのでございます。

これに対して、その十億の水揚げを持っておりますところのえさの蓄養所が非常に現在浅くなっておりまして、昭和三十七年頃には取った魚の七〇％が生きておって、それを販売しておったんですが、現在においては港が非常に浅くなってしまった。それに対してヘドロ等については炭酸ガスの発生等みまして、えさイワシが現在においては四割強しか生きないという現状でございますが、これに対して市としては市の大きな水産行政でございますので、館山市にはそれだけのしゅんせつ工事等に関係します金が現在にはないと思いますが、これを国なり、県なりを動かしまして、一日も早くしゅんせつ工事をする考えがあるかどうか。それを聞きたいと思えます。

それから、市が仲介の労を取りまして、館山の自衛隊とあぐり業者の間に艦船が五〇〇トン級が横づけするために、市が中に入りまして話し合いをされたのでございます。

その間においてあぐり業者としても、自分たちの蓄養所を非常に無理をしてある程度妥協したのでございますが、その妥協点といたしまして現在堤防が自衛隊に払い下げされた地域の関係上、自由に網の積み降しができなくなってしまったという現状に対して、その妥協の代案として船形のあぐり船としては港内に棧橋をつけてもらいたいという妥協案を示されたのでございますが、それすらも市の予算の関係が少ないか、どういう事情か存じません

が、現在においてはそのわずかな棧橋すらも実現できず、あぐり網業者といたしましては、網の上げ下げの問題について非常に困ってしまっていて、現在自衛隊が払い下げになりましたスロープを使って網の上げ降しというべきものの緩和をはかっておるのでございますが、それについて自衛隊はあぐり業者に対して使用料を、岸壁使用料というか、スロープ使用料といいますが、それを要求しておるのでございます。

これに対しては、せっかく市が自衛隊とあぐり関係の中に入っているが、これではあまりに無責任ではないかと思うのでございますが、これについて市としてのお考えはどのようなものでございましょうか。

それから、漁港整備等に自己負担が多過ぎる。これは現在でございますと、大体市の予算をみましても、大体二百萬ぐらいの自己負担を船形の漁港に対しますところの地元負担として出しておりますが、今後船形港に大きな工事があると、一億、二億の大きな工事ができてきた場合には、現在の地元負担の配分ということになりますれば、館山市はもとより地元の船形漁協にしては非常に地元負担金というものが莫大なものになってくるのでございますが、これは対しまして市としては国なり、県なりに対しましての地元負担金を減らすという運動をする考えがあるのか。また現在しておるのかどうか。その点についてのお考えをお聞かせ願いたいと思えます。

第三点といたしまして、市の予算の現況についてでございますが、去る九月十五日の豪雨によって館山の土木工事というものは非常に甚かの災害とか、そういうものがあつたために本年度に予

定されておりましたところの道路の舗装化、または土木に関連する問題が非常に遅れてしまっております。

私も今年の五月、六月にお願いして、今年じゅうに必ずやうてやるという言葉は土木から取っていながら、いまだにそれが実現していない。こういう現実がございしますが、これに対して災害のために市の予算がなくなってしまうのか。また今年度土木課としてその工事を今年じゅうに土木としてきまっただものはやる考えがあるのかないのか。

それから、市の開発公社でございしますが、現在市の開発公社には手持ち金はどれだけの金額を持っておるのか。これはある一部の者しかわからないと思ひますので、同じ議員でございしますので私といましては、お聞きしたい次第でございします。

今後における市から委託されました土木工事、その他による債務負担行為の限界はどのぐらいであるか。また市の計画による今年度分の予算執行はどのぐらいの限度が可能であるかをお聞かせいただきたいと思ひます。

次に、山林開発等につきまして、市としては認可、許可といふべきものは市の権限では法的にはないものが相当ございします。しかしながら、なんか九月十五日の災害が起こった場合に、結局市民が文句を持ってくるのは館山市でございします。県が許可して、国が許可して市がそういうものは法的にないといつても、市民が直接にそういう被害を受けた場合には、その文句をいつてくるのは館山市でございします。

そういう点を考えまして、ただ館山市が自分においては許可、認可の権限がないんだということで、これはしかたがないという

ような考え方でなくして国なり、県なりに対して行政指導といふべきものを市としても積極的に訴える要望があると思ひんですが、これについて市としてのお考えを聞かしていただきたいと思ひます。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 流山議員さんの御質問の第一点についてお答えをいたしたいと思ひますが、御指摘の用地は、船形漁港隣接地の現在安田木材が使用してある国有地と思ひますが、該地は終戦後間もなく安田木材が借用し、今日に至っておりますが、数年前臨港道路をつくるについて一部を貫通させるため、県が直接安田木材と話し合つた結果了解を得たが、その際公用廃止し、払い下げようとのことで手続が進んでいるようですが、漁港区域外であつて、また昭和四十五年五月六日に千葉県告示によつて船形漁港区域にかかわる海岸保全区域に含まれましたが、その土地は公用廃止済みで、また地元からこの問題について今まで何ら問題はないものと考えております。第一のことをお答えしたわけでございします。

二番目は、市の水産行政についてということでございしますが、これは館山湾内におきますあぐりのえさイワシの蓄養事業はきわめて重要なものであることはお説のとおりでございしますため、議会で昭和四十二年九月地元からの蓄養施設造成のため消波堤築造の陳情に対して採択し、県でも県議会で昭和四十二年十二月本会議で採択し、実現に対してその後検討が行なわれているわけでありまふ。私も実現の方向で努力いたしたいと考えております。

しかしながら、これはなかなか当時聞きまして、約十億とい

うようなことであつたんですが、なかなか地元負担も容易じゃない。市の負担も容易じゃないから、あれは代議士も私も何回か頼んだんですが、全額県と国でやってもらいたいという要望もいたしたわけでございますがこれにつきましてはまた漁業組合のほうでも県、国、県議員、国会議員の方にもお願いしてあると思ひますけれども、市でもやりますから、強力にひとつやっていただきたいと思ひます。

あの当時十億といつたんですが、今ではもつとかわかると思ひますが、国や県でやるなら十億、十五億大したことはないと思ひますが、館山市の予算ではとてもとてもですが、私も心配しますから、ひとつ漁港関係者においても政治的に骨折りを願ひたいと思ひます。

あぐり網の荷揚げ棧橋のことにつきましては、館山航空基地が一部あぐり網業者の使用していた場所を占用したいということで問題が起き、代替の意味で航空基地で棧橋をつくるということになつてゐると聞いております。

これにつきましては、私は直接衝に遺憾ながらあたりませんでこれにつきましては谷貝水産課長がやっておりますから、くわしいことを課長から申し上げます、また皆さま方の意向達成に市長としても今後努力をしてまいりたいと存じます。

それから、漁港整備と地元負担金の軽減についてということでございますが、これにつきましては漁港を持つ市町村等において全国的にも漁港協会というものをつくつてございまして、そこでも政府やなんかに向つて負担の軽減について私もいきませんが、毎年やっておるし、また県に対してもやっておるんですが、なかなか

か軽減されませんが、館山市におきましては、地元負担については八割を負担しておつて二割を漁業組合のほうで負担するということですが、よそのほうでは大体五割ぐらゐを市町村でやつてゐるらしいですが、館山市としては全国的にみてもそういう割合で高いと存じておりますが、いづれにしても漁業も何と申しますか、農業これも容易じゃない現状でしょう。

海水の汚染とか、いろいろの問題があるし、漁業にたずさわる方も年々なくなる。後継者ですね。なくなるということも聞いておりますが、やはり漁業生活者にとりましては、これは漁業の振興をはからなければならぬことは当然ですが、できる限りやりたいと考えておるわけでございます。

それから、土木事業が遅れていたりなんかして、どのように予算を考えてやっておるかというようなことのようですが、これはいづれにしても市議会で御決議を願つた事業は予算をもつてこれは御決議を願つてあるわけでございますが、遅れておりますけれども九月十五日の集中豪雨等によりまして突発のあれがありましたから、今までの計画も多少遅れておると思ひますけれども、大体終つたと思ひますが、これは流山さんの御心配されている面については御承認願つた土木事業については年度内にその予算等の心配なくやりますので御了承願ひます。

それから、市開発公社の現金がどのぐらゐあつて、債務負担行為の限界はどうだ。こういうお尋ねでございますが、議員の方々は中に代表されてたしか五名か六名の方が理事となつていろいろ御相談を受けて運営しておりますが、現金については十一月三十日現在におきましては、現金は手持ち現金としては三千八百六

十八万一千五百八十五円が現金としてあるわけでございますが、債務負担行為については別に法的の定めはございませんけれども、起債の許可のようなことを基準として考えていくならば、大体二十七億程度の開発公社がこれは借金することにもなりますから、市議会の同意がなくなっちゃできませんけれども、それぐらいまでの事業はやつてもさしつかえないだろう。そんな必要は今のところ持っておりませんが、そんなわけでございますが。

それから、最後の開発についてのことでこれはなんでしよう。開発についてはもちろん保安林とか、それから自然公園法に基づく地域内は制限がございますけれども、その他の制限のない地域に対してはどういうことでやっておられるかということをお伺いするように思われますが、これについてはやはり自然を保護するということを中心として、開発者に協力を求めて市の方針にそうように緑化、自然風景を損しないように指導をいたしてまいりたいと思います。

それから、県で認可、許可をすることで市のほうでは素通りするんじゃないかというような御意見のように聞いておったんですが、県で認可をするような場合に市の意向、副申を求めてまいりますから、これはこうしてもらいたいとか、これは賛成できないとか意見書をそえてやりますから、市の考え方として県は無視されない、しかしながら反対意見についても許可する場合もありますけれども、しかし大体市の副申に基づいて許可、認可されておると存じますので、その点はこういう時代ですから、土地開発等については特に市のほうでも検討しまして、業者にも指導するし、それから副申についても正しい意見をつけて自然環境、緑を損し

ないようなことで今後もやってまいりたいと思いますので、よろしく御了承願います。

○水産課長（谷貝茂生君） ただいまの御質問の中で、第三点の館山港におけるあぐりのいわゆる代替棧橋の問題につきまして私のほうからお答え申し上げます。

この問題は、航空隊が鷹の島寄りの岸壁の防波堤、あそこ到大型船の船をつけるために航空隊の場所として払い下げになったところでございますが、これを占用するにつきまして、従来あの棧橋をあぐりでもって使っておったわけでございますが、あそこを船をつけたらあるいはその地域を管理するために占用したいというところで、そうしますと防波堤にもいけなくなる。あるいは網を揚げたりすることに支障をきたすということで、あぐり関係の方と館山航空隊が一応話し合いを進めました結果、代替棧橋をそのかわりあの地区につくるということで一応話がついたのが最初の発端でございますが、ところが、当時は小規模のもので棧橋をつくるという話がだんだん発展しまして、いさ少し規模を大きくしてつくるという話になったために経費が相当かさんで来た。そのために、航空隊の現地部隊だけの力では経費の問題で困難だということから、結局防衛施設周辺の整備法にひっかけて国の予算を出さなければならなかったということで、そのときから市のほうにも話がきたわけでございます。

ところが、その話は、もってくるときには、市でただ副申さえつけばいいのだというお話しでございましたけれども、周辺整備法にひっかけてやるということになりますと、当然補助の形になつてきて市が事業主体にならなければならないということにな

りますと、大なり小なり地元負担ということで、市も経費がかさ
んでくる。あの港は現在管理者が県になっております。したがっ
て、館山港におけるいろんな施設をする場合には県が管理者でこ
さいますので、仕事をした場合に館山市としてはただ一部負担金
だけ納めておるわけでございますが、その区域内で市が事業主体
でやるということになると、予算関係の問題、企業主体としてそ
れをつくった場合に、この棧橋がこわれたりなんかした場合、維
持、修理、管理していかねければならないという問題も起きてま
います。

それから、一般の利用ということであぐりだけでなく、他の船
にも使用させなければならぬ。そういう事業主体の問題もから
み合わせてまいりまして、そればかりでなく、県のほうに一応私
のほうでも計画の内容等送りしましたところ、昭和五十一年頃まで
にあの鷹の島までに行く岸壁は船が接岸できるように改修してい
くんだという計画になっているというのを聞いたわけござい
ます。

そうしますと、大規模な代替棧橋をつくっても数年たらずでそ
れをこわさなければならぬ。経費が非常に大きな損失ではない
かということから、再三折衝を重ねた結果、また話が元に戻りま
して、その間における一時的の便法としての計画に戻して、航空
隊の責任においてつくりたいという話にその後話がきまりましたと
きには、船形の漁業会であぐりの組合の方も全部立ち会ひの上で
話し合って、そのような話になっておるわけでございますので、
あくまでも公約は履行してもらおうべく、市が予算がないとかある
いはやらなかったということではございませんので、あくまでも

航空隊のほうでやるという話になっておりますので、それを実行
してもらおうべく私どものほうでは交渉しておるわけでございます
が、しかしその棧橋ができるまでの間は、あぐりのほうの営業に
影響があつてはならないということで、あの地区はさくを設けま
したけれども、門鑑によって支障なくあくまでも通行できるよう
に現在やつておるわけでございますが、先ほど御説明の中にあそ
こを通行するについて料金を取る、どうの、こうのということ
を私はじめて聞きました、そういうことになりましたれば、今後も
し事実とすれば、それは私のほうからあくまでも代替棧橋の実現
までは交渉するようにいたしたいと思ひます。

〇三番（流山源次郎君） 水産課長にお聞きしますが、今の話し合
いで地元のあぐり関係者が大規模な棧橋じゃなくして、とにかく
今あぐりが必要ないけす網等の揚げ下げをする簡単な棧橋をつく
ってもらいたいということがある場合には、市としてもある程度
の分担金を持っていい意思がございしますかどうか。それをお聞き
したいと思ひます。

〇水産課長（谷貝茂生君） ただいまの御質問でございしますが、一
応航空隊でやるという話になっておりますので、さらに航空隊と
折衝いたしまして、それから今のお話しのようにやるということ
になりますと、商港でございしますし、私のほうも役所内で土木課
との関連も出てまいりますから、その時点で相談してやりたいと
思ひます。

〇三番（流山源次郎君） 先ほど市長さんの丁寧な答弁の中でいろ
いろくわしい説明がございましたが、私といたしましては地元の
負担金というべきものが国、県に対して地元を減らすという

こともなかなかこれは容易じゃないというお話してございましたが、確かにそのとおりでございます。

私、市としてせっかく水産行政ができて水産課というべきものがある、われわれ漁民の上に立つて指導してもらおうところの水産課があるのでございますから、この水産課というべきものがただクルマエビ、ノリの養殖そういったもので、あとは港の、港湾の付帯工事に対する事務の打ち合わせというよりな線だけでなくして、積極的に船形漁協の執行部等の、またあぐり業者等の話し合いをいたしまして、なるべく国や県に対して地元負担金というべきものを減らすという運動をもっと積極的にやっていただきたいと思うんです。

現在、船形町としては組合長はじめ今後において大きな工事が好むと好まざるとにかかわらず、館山地区において開発というものは盛んになってくるということになりますと、現在一千五、六百万の予算工事でございますが、これが一億、二億また十億近い金になってくると館山市は一体どうするんだということを考えた場合に、現在の場合でございますと、国が三種漁港関係では国が五割持つて県が三・七五%、あとの一・二五%は市とまた漁協の寄付ということではまかなってあるのでございますが、これが一億、二億になったら何千万というものが市の負担に頼らなければならぬ。こういうことになれば何ら仕事ができなくなってしまふのじゃないか。

現在の市の状態からいったらそんなところにまわす財源がないと思いますが、組合あたりは漁港大会等に組合長が出席して相当突込んだものをもってあって、現在も結局国の予算が五割という

ものを六割というべきものにしてもらいたいということで積極的に猛運動しておるのでございます。

仮りにですね。国あたりが現在五割を持つ三種漁港に対するものを六割にした場合には、これをすぐ館山の地元負担金に結びつけた場合には館山では〇・二五%で済むわけです。そうなってくれば、現在一千万の仕事で二百万出しておっても、一億の仕事になっても二百万で済むことになるんですが、そこまでもってくる段階において国が一〇%ふやしたんだから県がそれを減らすということになれば、館山は元のおぼはち取らずになりますので、館山市の水産課としても不可能であるかもしれませんが、現在船形の組合長あたりは積極的に県、国にかみついてその実現の線に近いものをとらえつつあるのでございます。

結局、水産課が漫然としておることなくして、組合あたりと積極的に協力して県の予算が、国の予算が六〇%になったら、そのしわ寄せが館山市がすぐ財源を少なくするという運動を水産課としてぜひしていただきたいと思うんですが、それに対する課長のお考えを聞かしていただきたいと思います。

〇市長（本間 譲君） 流山さんの御熱心の水産に対して敬意を表します。

今の負担金の問題については、われわれという用語弊がありますが、水産課でいくらやってもなかなかこれはうまくいかないですね。これはやっぱり御承知でもございましょうが、県議員とか衆議員とかそういうものをじかに動かさなければ私は成果があらぬと思うですね。またあなたの方のために県会議員が出ておる、そういうところに働いてもらわなければ出てもらう必要がな

いじゃないか。(笑声)よく声を聞いてやるとかいっておりますが、住民の声なんか聞きやしませんよ。それでしよう。私は年に二回ぐらいご用聞きにきたらよかつと、ちょっと暴言でしようけれども、とにかくわれわれの代表でしよう。こういうことを政治的に大きな予算の面で県会議員とか衆議院議員を、本当に私もやりますよ。一諸になつてそういう人から、事務的に水産課長、単に館山市長がやつただけではなかなか動かないですよ。やっぱり大きな政治力で元をゆすぶらなければ成果が本当にありませんよ。本当にその線でお互いにやつて、われらの代表が地元利益のためにどれだけのことをしたということにならなければ出てもらつても意味がありませんよ。それを動かすのはわれわれにあるわけですよ。うへちやつておけばやりやしませんよ。頼みに行つたつていそがしいとかなんとかいって会やしませんよ。(笑声)選挙のときはばかり地元の役にたつといつてもちつともやつてくれないます。

そんなことをいつたつて関係がないけれども、先生方が聞いておればおこられるかもしれません。本当ですよ。高度の政治力によつて館山市ばかり負担を減らすべしといふためですよ。千葉県全体の漁港の負担の軽減、やはり県全体の負担の軽減こういうことでやらなければから回りますよ。

ひとつこの際、われわれもつともつとよく考えてああいふ人々にフルに先進的にひとつ動いてもらふことをやろうじやございせんか。まあ、かつてなことを申し上げて脱線して皆さんにおこられるかもしれませんが、私の考えておることを申し上げます、できるだけのことをやります。

〇三番(流山源次郎君) 市長から非常に力強い議員としてありがたいことば感謝しております。(笑声)

材木市場の払い下げの問題、この件でございしますが、私もこの件につきまして県の水産課なり、県の土木課に行つて書類調査なんか相当したんでございますが、これは県が館山市を通じないで県独自の考えで公用廃止、払い下げしたという点がはっきりしております。

それで、さらに市の土木課管理課長を通じて、県の管理課に電話連絡したところが、管理課の考えが、あそこ場所は現在県がみたところでは、大した公共性はないのだという考えのためまた昭和四十五年度の三月が非常に決算期にきておるといふそういったために、県としては本来ならば市に連絡をして市長の意見書等を取り寄せるのでございますが、間に合わなかつたために、法的に関係ないということで地元も何も話さないでやつてしまつたという話を聞いたのでございますが、私として特に市とともに県に對して文句をいいたいことは、今後好むと好まざるとにかかわらず、この南房の開発といふことは、盛んにわれわれの意思以外のものについてもどんどん行なわれてくると思ひます。

そのときに、市の関係のこういつたものが一番知っておるのは地元の漁協であり、館山市である。ところが県で机の上で館山市の問題が大した公共性がないといふことで、現在日本全国でものわらいのような三種漁港の中にマグロにあらずして材木がごろごろしているといふような現実をつくつてしまつて、そうして県のいい分は、県は大して公共性がないといふことをいつておるんです。

それに対して今後そういうことが再度またこういった面で法的に關係ないということで、県で単独に行なわれるということがなきにもあらず。こういう面がございまして、市としても、われわれとしてもあくまでもこういう点については二度とこういうことを起こさないように、払い下げとかそういう場合があったら館山市を通じて地元の見解を取ることについての県に對する要望について、市長さんのお考えを聞かしていただきたい。

○市長（本間 譲君） 流山さんの今のお話のように、つまり市にいわずに相たいでやっちゃったですね。道路の關係か、特殊事情があったと思いますが、もちろん今後そういうことはないように、また県のほうによく話してやることにいたします。

○三番（流山源次郎君） 時間がありませんが、いそいで申し上げますが、先ほどの自衛隊との話し合いの件でございしますが、それにからんで、ここで一言要望したいことは、実は今年の十月下旬から十一月の月上旬にかけて、自衛隊の観艦式のためか、または自衛隊の演習のためか知りませんが、館山に相当の自衛隊が投錨するわけです。

ところが、自衛艦としても二十ひろ以上あるいは三十ひろ以上のところに投錨してくれるのなら、網をやるにもさしつかえないのでございますが、館山湾の浅いところにきていかりをやられると、いかりを起こしたあとに海の中で盛り上ってしまふ。その場合網をかけた場合、もう網が上ってこないとか、非常に苦勞する事態が相当あるんです。

それからさらに、十月下旬から十一月の月上旬にかけて自衛隊がいかりをやるなら、館山湾あれだけ広いところなんだから、もっ

と区域を広げていかりをやってくれば館山湾内であぐり操業できる。しかし今度の場合、自衛艦が大体約五日ぐらい投錨したと思います。その間にもうあぐり漁船が出漁いたしておりました。魚が見えた。魚探に魚のかげが写った。網を入れた。ところが自衛隊が区域を狭く投錨してしまったために、あぐりは魚がみすみす見えてもそれを取ることができないで指をくわえて帰ってしまったということがあったのでございしますが、市といたしましては、行政機関でございしますので、自衛隊に県、国を通じて館山湾を使用する場合には、もっと地元の漁民の有意義なる操業ができるようなことを配慮してもらいたいことをひとつお願いいたします。私として質問を終わりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 次、八番議員石井武敏君。

（八番議員石井武敏君登壇）（拍手）

○八番（石井武敏君） 私は、現在館山市が来年の若潮国体に向かつて花いっぱい運動等と、一見はなやかにみえますムードの盛り上ったこの中で、直接市民に影響しているいわゆるムードのかげにかくれた、かくされた部分、そういった部分に今回の質問はふれてみたいと思います。

まず第一は、し尿汲み取りがどのように行なわれているか。この点でございします。現在館山市では、し尿汲み取り状況は人頭割では七千二百十三世帯、人数では二万二千四百四十三名これを汲み取っております。また従量制におきましては一千二百十三軒、これらを含めて九千軒にのぼる汲み取りを行なっておるわけでございしますが、かつてこの汲み取り料金の値上げのときに非常に問題がございました。議会でも御承知のようにもめました。

その一つのポイントというのは、非常にサービスがわるかったという点でございます。私はそのときに、もし料金改定がなつて依然として市民に対するサービスがわるいということであれば、市民に対する裏切り行為になるんじゃないか。このように発言を一貫してやってまいりまして、そうして現在料金改定されまして数カ月過ぎたわけでございますけれども、果してこれらの市民サービスの上という点におきまして、市当局は今までの問題はいかに解決している。このように判断されているのでありましょ

うか。どうでしょうか。この点をまず一点聞きたいと思ひます。それから第二点目は、最近浄化槽が非常にふえてきております。また浄化槽の不完全なもの、不備のものによって非常に市内の河川が汚染されていることがめだっております。ですから、われわれの知らない間にそういう花いっぱい運動あるいは日光館山のイメージというものが徐々にくずれようとしているといつても私は過言ではないと思ひます。おかげさなしい方ではないと思ひます。

現在、館山市における浄化槽はどのぐらいあるかといひますと館山市内の河川の流域におきまして流域別にみますと、汐入川流域に流れておりますのは三百三十五槽でございます。平久里川流域に流れておりますのは三十一槽、その他四百六十九槽これだけの浄化槽が現在配置されて流れております。そうしてこれらの環境衛生対策というのは非常に大事だと思ひます。

少し一方突込んで細かいことになりましたけれども、厚生省の定めた維持管理基準をみてみますと、ちょうど便槽の落ち込みパイプのそれと、それから過するスカムとの間が一〇センチ離れて

いなければならぬというように定められておりますけれども、どうやらその基準がなかなか守られてないというのが現状ではないかと思ひます。

ですから、せっかく館山は観光をめざすのだというすばらしいイメージを描いておりますけれども、そのかげにこういう問題は実質的にどのように解決をしていくのか。どういふように対策を立てていくのか。そういう市の姿勢というものを聞きたいと思ひます。

第三点目は、十月十九日に放映実施にスタートをきりました有線放送テレビについてでございますけれども、これも非常に莫大な予算をかけてできました。前教育長は胸を張って、自信を持っています。またわれわれも大きな期待を持って見守ってきた者でありますけれども、果して現在これだけの効果というものが見込まれておりましょか。その点非常に疑問に思ふものでございます。

私の調査によりますと、まず北条小学校の五年年の例を取ってみますと、この十二月第二週の放送時間を調べてみました。四日には十二時から一時までの間の昼休み時間を利用した番組を放映しております。ですから、昼休みですから見えない生徒がたくさんおります。また五日もやはり十二時から一時までの昼休み時間を利用した番組を流しております。六日には十一時から二十分間のＣＴＣの「開かれる工業地帯の紹介」これを行っております。七日の日もやはり昼休み時間を利用した市内の学校紹介これを行っております。八日の日は十一時から二十分間の六日の日と同じ工業地帯の紹介これを行っております。

こういうように、昼休みを利用した番組わずか四十分間一週間のうち、こういう放映になっております。昼休みを除いた部分でございすけれども、非常に利用度が少ない。

私は、利用度が少なくてもそれだけの効果のあるものをもって、いるという現場の教師の自信が、そうして確信が、方向性があれば、私は何にもいいたくありませんけれども、どうやら何かふわふわとした風に吹かれた雲のように、何かはっきりした教育効果というものがのぞまれてないというような感じを深くするものであります。

そうして、各学校からの学校要請というのがセンターのほうにあって、学校要請に応じてそれを放映していくという、そういう順序になっておりますけれども、当初は非常にめずらしいので、学校要請があったのだそうですけれども、現在は非常にめだって減ってきて一日に三本か四本しかない。非常にさむざむしい状態であるように思われます。

ですので、私はこれだけの莫大の予算と期待をもって設けた放送センターでありますので、どうかそれだけの効果を望みたいと思う者であります。

これらについて、今後の方向性あるいは現状はどうであるか。こういうことについて疑問を持っております。御質問をいたします。以上であります。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 石井議員さんの御質問に対しましてお答えをいたしたいと存じますが、はじめは、し尿処理の現況はその後どうなっておるかというようなことのようでございますが、し尿

処理は条例によりまして、それぞれ最低月に一回ですかを汲み取っておるし、集金もトラブルがありましたから、集金人を別に定めてそうして人頭制の表示をしたりして指導しておるわけでございますが、特に市民サービスについては支障のないように、こういうことで指導しておるわけでございます。

現在においては、私としましては多少のことはございまして、けれども、普通に運営されていると存じますが、石井議員さん、なにかこういうところとか、ああいうところとか事例をあげておっしゃっていただきますならば、その点をまた追及をしまして、改善をはかってまいりたいと思いますが、いろいろ御注意いたいただくことはけっこうと思いますが、そういうふうにしてやりたいと存じます。

第二点は、浄化装置のことで、河川が汚染されて観光のいろんな面で心配がないかということでございますが、これは年一回は必ず県、保健所、市によって取りつけ箇所を点検して、ぐあいがあるものは改善をはかって指導しておるわけでございますが、また河川は、船形におきましてはどんだん川のところに滅菌装置も夏にはやりますし、また汐入川にも滅菌装置をして海水の汚染を防止しておるわけでございますが、今のところ今後の問題でございしますが、湊川の川にも必要性があるんじゃないかと考えております。

いずれにしても、今保健所等とやっておりますけれども、特別そのために河川が汚染されて害をなすようなところではないと思いますが、また石井さんの御研究によって、基準よりもわるいとか、いろんな点がございましたら事例をあげて御注意くだされば

その点につきまして追及して改善をしてまいりたいと存じます。

それから、有線放送テレビの教育効果についてというようなことの御質問のようでございますが、これは私もしろうとでいう資格もございませんけれども、教育というものは一カ月や二カ月でその効果が現われないことは御承知のとおりでございますが、いずれにしましても、現在教育委員会においても非常に熱心に指導しておりますが、また各学校の先生方も非常に熱意を持ってこれに取り組んでおりますので、私はまあまあいい出発をされておる。今すぐに効果をどうの、このというまでには開かれてもちょっと私としては答弁をいたしかねますが、やはりある期間をもつてでなければ効果が望めないじゃないかと思いますが、くわしいことについては教育委員会のほうでひとつその成果等につきまして答弁をしていただきますので、よろしくお願いをいたします。

(教育長安田豊作君登壇)

○教育長(安田豊作君) 有線テレビのことについて非常に御熱心に調査の元について御質問をいただいております。

有線テレビの教室における効果について三点から申し上げてみたいと思います。

一つは、各教室にテレビがあつていわゆる映像によって子供が学習ができるということについて、映像による情報の伝達ができるというようになったということ。この効果でございます。

映像による認識は、ことばや文字による認識よりも早くて確実であるということがいえます。したがって、まだ日が短かいわけでございますけれども、過去の私の経験から調査した結果、子供たちの認識の度合いは確実にしかも早く進められているんだ。こ

ういうこと。

それから、今石井議員さんから現場を調査しての時間数、昼休みに出てみんな見てないじゃないか。こういう御指摘がありましたけれども、有線テレビでありまして、この有線放送センターから流す映像だけではございません。教室においてはNHKの視聴ができるように装置されているわけでございます。NHKからは各教科あるいは道徳、その他にわたりまして放送があります。それがどういうふうに視聴されているかを調査してみますと、大体継続視聴として毎週あるものを継続して視聴しているものが三本乃至四本ございます。そのほかに音楽とか、道徳とかいうもので選択していいものだけをひろって学習に取り入れているものが二本乃至三本あるようでございます。

これが、大体平均された市内の学校の視聴の状態のようでございます。これを通して子供たちは映像による認識の強化をされているんだ。こういうことがいえると思います。

第二点が、館山市の有線テレビの特色でございます。放送は今申し上げたように非常に認識の強化がされるわけでございますけれども、流し放しと俗にいわれておりますけれども、一方通行でございます。向こうから流れてくるだけでございます。流れてくるだけを聞いておりますだけでも効果がありませんけれども、いわゆるそれでは学習にはならないわけでございます。

学習とは、いつて、かえってまたいく。要するに情報を流します。それに対して子供が反応してきます。その反応に対してまたこたえてやるというやりとりがあることによって学習がなされるわけでございます。この有線テレビは質問ができるように、流し

た情報に対して質問ができるように電話が各学校に音声によって連絡ができるようになっております。そのために、要するに有線テレビによる映像による学習がやられた場合に、NHKより非常に高度な学習の型となって子供に定着していくんだ。こういうことがいえると思います。

それから第三の点は、有線放送ができる前からそこに館山市教育資料センターといまして、学習資料のセンターになっておったわけでございます。それを自動車で配給しておりましたけれども、それならば線をつなげばその資料を線を通じて、要するにテレビを通して送れるのじゃないか。こういうことでございます。したがって、今の子供の学習というのはたくさんさんの資料を選択して、あるいはその資料を組み合わせるということが学習の効果をあげる。いわゆる資料の多様化といえますか、たくさんさんの資料を使うということ、しかもその資料をたくさんの中から選択していくという能力、そういうことでございます。

したがって、ここに行なわれる学習は、従来いわれておったところの知識を詰め込んでいくという貯蓄型から能力型といえますか、能力を選択したり、組み合わせたりする能力が子供についていく。こういうことがいえると思います。そういうことをねらってしかもそれがそういう形でなわれておるわけでございます。したがって、これを子供の効果としてすぐ始めて二カ月ぐらいでございますから、その効果をここで数字的にはつきりあらわすことはできませんし、また将来でもいわゆるペーパーテストによる評価によっては、これははかれないものだと思えます。

これからの子供の能力というものは、そういうペーパーテスト

の知識の量のようなもの、反応するようなもの、そのようなものではなくて、もっと現在のめまぐるしい社会に適應できるところの非常に反応の鋭敏な子供であるとか、あるいは明かるく人間と接することができる子供であるとか、あるいはある印象をとらえてものを考えていく子供であるとか、そういう人間として評価していくならば、非常に効果があるものと、こう思っておりますし、過去の私の経験からそういうことがいえると自信を持っております次第でございます。

以上、お答えになりましたかどうか。お答えいたします。

○八番（石井武敏君） 尿処理についてでございますが、再質問いたします。

いろいろお答えいただいたんですが、現在十月から小型車二台大型車八台で汲み取っておるはずでございます。特に小型車を使ったものは、必要性のあるものは九百七十世帯あると思いますが、これらの二台で十分現在消化しているでしょうか、どうでしょうか。その点お伺いしたいと思います。

それから、浄化槽につきましてはいろいろ御答弁がありました。が、先般県と市と、あるいは保健所、この三者タイアップして抜き打ち検査しておるはずでございます。市内に十カ所ですか、たしか検査してあるはずでございますけれども、その成果、結果はどうであるか。これをお聞かせ願いたいと思います。

それから、放送センターについてでございますが、ただいま教養長からも重ねて答弁がございましたけれども、各学校にビデオが配置されておることは私もよく知っております。そのビデオがどのぐらい回転しているかも調べてまいりました。

私が申し上げたいのは、実際の教室のカリキュラムにプログラムはどのように組み合わせていくということに、その点に懸念を持つわけです。非常にむずかしいことであると思います。

また、ビデオそのものが非常に本数が少ないんです。現在のビデオではその効果が十分にできません。確かに市長さんが答弁しましたように私も一足飛びに大きな成果を望むというのは、これは確かに無理であります。しかし無理でありますけれども、それまでの段階にやはり教育長が今ちよっとおっしゃったビデオをもっと活用していくべきではないか。これは学校に主体性があります。教師が主体性を持って活用できるものであります。ところがそのビデオが非常に不足しているというのが現状ですね。この現状をどのようにみますか。この点をお聞きしたいと思います。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君）　ただいま石井議員さんの小型車のことでございますが、確かに九百七十程度ございますけれども、実は、私どもの係員二名で二十七日間かかって、本当に九百七十世帯が小型車を使わなければならないのを調査いたしましたところ、どうしても小型車でなければならぬものが四百四十一という結果になったわけでございまして、しかも九月に小型車を一台増強した関係で現在間に合っておる状態でございます。

それから、他の四百四十以外のものは、現在の普通車に切りかえさせたいということになりましたので御了承願いたいと思います。それから浄化槽の先ほど申されました検査の結果でございますが、抜き打ち検査でございますして、県環境整備課から来庁してもらった結果でございます。検査の結果は、十カ所のうち不良が二、良が八という結果でございます。

〇教育長（安田豊作君）　ビデオをもう少し活用したらどうかという御指摘でございます。そのとおりでございます。

現在、どうしているんだということでございますが、これは有線放送テレビのもう一つのねらいは、教師の労力の軽減といえますか、教室における教師が、あるいは学校における教師の労力を減らすためにこういう施設をしたんだという見方が一つできるわけでございます。

あのビデオにNHK、その他から放送されたものを学校で録音録画して時間が狂いましたら、違う時間に学校での時間に使うということが一つの考え方でございます。しかし、それを録音、録画するための手が必要になります。これはどうしているかという点、これは放送センターに電話で申し込みがあれば、あそこで録音、録画したテープを学校に回すという方式を取っております。ですから、今のところ、学校には最低のところはたしか二本ぐらいしかないところがあると思います。あるところには、百本近くあるところもありますけれども、そういう差がありますけれども、放送センターとのくり回す数がまずあればいいじゃないか、今後は学校配当の備品費で購入していくようなそういう計画になっております。

それから、放送のプログラムはどうしているんだ。放送のプログラムと学校のいわゆる時間割はどういうふうに合わせるんだ。こういう御質問でございますが、これは一番技術的にむずかしい問題でございますけれども、これはあくまでも放送というのは、学校の主体性にまかせるということがたてまえにしなければいけない。こう思っております。いわゆる別のことばでいうと、放送

センターから流したものを、その時間にみんな市内の学校全部一緒に同じ時間に聞くだけだという体制は、学習としては非常にまずいき方だ。

だから、学校のプログラムに合うように、これは教科書も同じですし、進度は大体似ていますから、それに合わせていけば大体合ってくるわけでございます。合ってくるわけでございますけれども、同じものを二日あるいは一日おきにとばして二回乃至三回流すことによつて、各学校のプログラムと合うように現在はおります。

その次に、それでも合わないときは、学校要請に一本十一チャンネルですか、あけてあります。学校の要請によつて流す。こういう方法と今のビデオに取つて学校に回す。こういう方法でプログラムとの合い方をやっておるわけでございます。

先ほど学校要請が少なくなつてきたんじゃないかという御指摘がありました。はじめのうちはプログラムが合わなかつたために学校要請というものが多かった。それが時間割に融通がつくように学校ごとのなれが出てきたために学校要請の減があると思ひます。

しかし、私としてはそういう意味でない要請を、きのうも教頭会がありましたから、学校要請がもっともつとふえることが学校の有線テレビの利用のパロメーターとして考えたいから、大いに活用してもらいたい。こういう話をしておいたわけでございますけれども、御指摘のように、この要請が今はちよつと減つておりますけれども、違つた意味で今後ふえることを私は希望しておるわけでございます。

〇八番（石井武敏君） 私、今回の質問のために二枚の領収書を持参してきましたけれども、一枚は非常に料金の支払い、受け取りで摩擦が起つた領収書でございます。いわゆる料金の食ひ違いの領収書でございます。いわゆる三百十円の請求がきておりますけれども、正式には二百四十円でございます。この点で八幡地区のこの人は非常に摩擦を起しております。

私は、持ってきたのは一枚でありますけれども、私がきょう持つてこれなかったこれらの領収書、こういった摩擦のあつた領収書というものは館山市内に散在していると私はみるものでございます。

すなわち、今まで小型車が一台でなかなかこれられない。非常に困りまして穴を掘つて埋めてし尿処理したというまことにいたましい、さむざむとした現状があつたことは事実でございます。

また、現在料金改定になりました入頭割になつたわけでありまして、そのときの支払いにおきまして、このようにきちつといたさざるをして明確にして支払つたものもあれば、あるいは非常に市民にとりましては汲み取つていただくという非常に弱い立場にあるわけです。ですから、料金をはるかにオーバーしている。そして支払つてゐる例が多々みられるわけです。

こういうように、私はまだ料金改定後これらの問題はあまりまだ解決されないというようない見解に立っておりますけれども、当局ではそういう問題もうすつかり解決したと考へておりますか。もう一回御返答願ひたいと思ひます。

それから、浄化槽につきましては、この調査の結果おもわしくない不良と思われる浄化槽が二カ所あつた。どういふ点が不良で

あったのか。厚生省の基準にはずれていることだと思いますけれども、その点もう一回確かめたいと思いますので御答弁お願いしたいと思います。

それから放送センターにつきましてでございますが、いろいろ細かく御答弁いただきましたけれども、実際私の調査した範囲では、ここにプログラムがございます。このプログラムの中には非常に学校要請の空欄になっておる部分が非常に多いございます。これらが減ってくるということは非常にもう利用価値といえますか、利用度といえますか、実際現場にいる先生方がこのプログラムをもらいまして、プログラムがきたということで、ちゃんと二つに折って机の上においてしまう。一カ月間、一週間そのままにおかれてしまうというような現状が私は多々あるというようにみております。

ですから、これらの学校要請が減ってくるということは、一つの大きな考えなければならぬ点だと思えますね。これらに対して真剣に取り組んでいただきたいという要望を重ねてしますけれども、どのような原因にあるのかということをもう一回お聞かせいただけますか。

それからもう一点は、教育現場と放送センターこれらを組み合わせるそれらの準備委員会があると思えますが、準備委員会というものがあつて程度有名無実になつていく感じが深いですけれどもこの点どうでしょうか。一言御答弁願いたいと思えます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） ただいま料金の問題でございますが、料金につきましては昭和四十六年、四十七年にまたがつて適正料金に改正願つたわけでございますが、ただいまのような問

題は、件数にして六、七件ございました。その解決方法としては、実際に業者のほうにいきまして調査しまして、それが本当であつたわけでございますが、実際に料金を住民に返してあります。そういうわけでございますので、これからそういう問題が発見し次第業者より応分な返さなければならぬ金額を取り上げて住民にお返しするよう、努力いたします。

それから、浄化槽につきましての不良の二というのは、全く清掃の行き届いてなくて、厚生省の基準より全くはずれておるといふいわゆる不良ということでございます。

○学校教育課長（小宮義夫君） ただいまの御質問でございますけれども、放送業務を開始し、そうして実際映像をつくる段階でいろいろの組織、運営を考へてみたわけでございます。

そういう組織、運営の面につきまして細かく申し上げます、まず運営委員会という組織をつくつてございます。これは教育放送の企画、運営について審議する機関でございます。それから番組編成委員会、放送資料作成委員会という組織をつくりましてこの組織の企画、運営によつて映像を流していくというシステムを一応考へたわけでございます。

十月十九日に放送が本放送開始されました、そのうちの放送資料作成委員会の中の協力的役割を果す協力委員会というものが含まれていくわけでございますが、その協力委員会のいろいろの会合、それから番組編成資料作成等についての協力によりまして、十月以降プログラムを一応組んで流しているわけでございますけれども、そういう相談の中で学校要請をどうしようかということが話されて相談されておるわけでございますけれども、学校要請

の番組についての考え方につきましては、先ほど教育長からお話しがあつたわけでございますが、たまたまその週の学校要請の時間、これはどうしてもここで学校要請が多いから学校要請の時間をつくるということじゃございませんで、たまたまその週の午後の部分が放送センターのほうから放送するプログラムがその週はなかったわけでございます。

したがしまして、そのあいている時間を学校要請の時間として取っておこうということがその週の学校要請の多い時間でございます。十二月の第三週の放送予定をみますと、ここでは学校要請の時間は三時二十分から四時まででございます、あとは午後全部プログラムでまわっている。そういう計画になってたでいま放送されているわけでございます。

〇八番（石井武敏君）　まず、し尿汲み取り問題でございすけれども、そういった摩擦が現在六、七件キャッチしたということでありすけれども、かくされた部分そういうものが非常にまだあると思ひます。そういったかくされた部分にこそ、市当局の不信感がはねかえってくるのではないかと思ひます。

また、ここにもう一枚の領収書がありすけれども、これは九月二十三日の領収書でございすけれども、この家庭は二百四十円普通支払う家庭でございすけれども、この領収書は八百円になってゐるわけですね。これはなぜか。これはちょうど水害のあったときですね。非常に水害がありましてたくさん便所に水がたまってしまつた。それで汲み取つていただいたんだけど、非常に高い料金になつたということです。

これをみましても、私は実際この家に行つて調査をしてみまし

た。非常に高いところがありまして、非常に地盤が低いところではうほりの水がよつてきて床上浸水するというのはとても考えられない高いところにありますけれども、こういう高い料金を取られてゐる。こういう水害、災害時にあつて非常に不当の料金を取つてゐるようには考えられますが、この点どのように考えられますか。その点何か手を打たれましたかどうか。この点お聞きしたいと思ひます。

それから、浄化槽につきましては非常に維持、管理が問題でございす。維持管理、指導強化このへんがまだまだ無策ではないか。予想されまことは今後一千槽あるいは千五百槽このように上昇しつつあります浄化槽、それによつていろいろとよごれてくる館山市、こういった現状を考えますと、何か野放しの無策ではならぬのではないかという気持が非常に強いわけです。この点無策であつてはならないと思ひますが、何か策がありますかどうか。もう一べん聞かしてもらいたい。

それからもう一点、葦野の市営住宅がありますけれども、この浄化槽から流れてくる水が、農薬用水路に流れておりすね。それが非常に不評でございす。においがなまのままくるということとで私も実は行つてみましたが、これは厚生省の基準にきちつとあてはまつておりますか。

それから有線放送テレビでございすけれども、ちょうど一粒の種がおろされまして、それがだんだん芽が出て幹になり、りっぱな木に、大木に育つていくわけでございまして、非常にむずかしいいろいろの複雑のプロセスを通らなければならぬとおもひます。今ちょうど、種がおろされたときですので、何とか私たち

としてもそれを伸ばしていただきたい。これだけの費用をかけて期待をかけて、エネルギーをかけてやっている仕事でございまして、なにぶん今後とも不評がないように、絶大な期待のまなことで市民もみておりますので、よろしく検討していただきたいと思ひます。放送センターにつきましてはけっこうでございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　まず、かくれたそういう実例が散在しているということでございますが、それをキャッチする対策といたしまして、実はここにお示しいたしますが、人頭制のマークを行政区担当職員にお願いいたしまして、一般家庭の人頭制の家に全部配布いたしてあるわけでございまして、この結果、非常にそういった不正料金といひますが、何かの間違ひが起きた場合の料金でもすぐキャッチできるうちに、今はそういうことが可能になっておるわけでございます。

それから、災害時のことにつきましておっしゃられましたですが、九月の災害のあとで業者に対しまして、本当に水害の被害といたのはちゃんと普通どおりやっていただくように再三お願いしたわけでございます。

それから釐野団地の浄化槽のことでございますが、これは現在基準にあてはめてあてはまっております。

なお、今後汲み取りに対しましては業者に対しても、そういうことのないように極力指導していくつもりでございます。

○八番（石井武敏君）　し尿汲み取りにつきましては、私がキャッチしたのは非常に氷山の一角であると思ひています。これらのかくされた氷山の部分がやがては不信感となつてはねかえってくるのは間違ひないと思ひます。

一つの方法としましては、一業者から二業者にという方向性を考えなければならぬ事態にきているのではないか。そのようなところに至つておるような感を深めるわけでございますが、今回はこれ以上いろいろ審議することを打ち切つて、私はまた後日のときに審議したいと思ひます。時間の関係でございます。

浄化槽のことでございますけれども、これも今はめだちませんが、今後一つの大きな公害問題に発展していく可能性が非常に強いと思ひます。そういった公害問題として発展していくてまえてもつて、私は政治の力というものが働きかけるべきであると思ひます。政治というものは、何か事故が起こつてしまつてあるいは大きな被害があつて手を打つのが政治ではないと思ひます。

今後、大きな問題となり得る可能性のあるこれらの問題に対して特に環境衛生方面でございまして、市のイメージアップのためにもまた来年迎える若潮団体のはなやかな舞台のためにも全力を投球して検討していただきたいと思います。

以上でもつて私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君）　午前の会議はこれにて休憩いたします。午後は一時本会議を再開いたします。

午後零時七分　休憩

午後一時六分　再開

○議長（吉田勇治郎君）　午後の出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

九番議員辻田　実君御登壇願ひます。

（九番議員辻田　実君登壇）（拍手）

○九番（辻田　実君）　四点について御質問を申し上げたいと思ひ

ます。

まず最初に、館山一中の移転と建設についての見通しについてお伺いをいたしたいと思います。この点につきましては、九月の定例議会の通告質問の中においてかなり細かく質問しておりますので、私はその結論だけをお伺いしたいと思うわけでございます。

市長は、有線テレビ放送の実施に伴いまして、館山市の教育の機会均等ということをやまず第一にあげられておるわけでございます。そこで、学校建築においては、非常に教育の機会均等という面から考えてまいりますと、アンバランスがあるように思われるわけでございます。単に一中だけではなく、他の地域においても多かれ少なかれこうした問題はあると思います。

しかしながら、この後のあすの議会の中で審議される補正予算の中には、館山二中の設計委託料の予算が計上され、館山、北条地域の教育施設というものは非常に充実されそうでございます。それに反して那古小さらには館山一中地域の学校施設の内容が見劣りがはなはだしくなり過ぎるのではないかとというふうに思われます。

教育の機会均等というのは、こうした学校建物そのものによつてすぐに評価されるわけじゃないかと思ひますけれども、しかしこれは大きな問題であらうかと思ひわけでございます。そこで、私は先般の九月の議会の中で御質問申し上げ、そうしてその後の経過がどのようになったのか。もうだいぶ時間もたっておりますので、その点を明らかにしていただきたいということが第一点の質問でございます。

二番目は、柔剣道場の建設について計画を持っておるかどうかという点でございます。来年はいよいよ若潮国体の開催の年でございます。この若潮国体に対して長い間いろいろと準備をしてまいりました。しかしながら、いよいよ来年むかえるという現時点において、この長い間の準備活動の総仕上げがどのようになっているかという点に対しては若干の疑問も生まれてきております。どうも最近の傾向をみると、この国体を請負的に何とか成功させたいというふうな傾向がみられるように思われます。

当初、この議会において館山に柔剣道さらにはヨット等を誘致するに對しまして、議会でもってその要請を協議し、そうして県等に対して働きかけをしたことを覚えておるわけでございます。したがいまも、柔剣道は館山市においては非常に重要なスポーツであるというふうに考えられておるわけでございます。

ところが、最近予算面等をみてまいりますと、今年の予算さらには来年の予算等については国体開催に伴って競技団体、さらには地域のスポーツ団体に對するところの育成、助成というような予算等についてはかなり削られつつある傾向にみられます。

確かに、市長は国体を通じて市政の第一の柱を体力づくりに設定したわけでございます。スポーツ少年団も五十を越しました。ママさんバレーも非常に多くできてきております。しかしながら本當にこの体力づくりを国体と結びつけていくということになれば、この国体開催が発点になってこうした問題が發展させていかなければならぬんじゃないかというふうに考えられるわけでございますけれども、どうも国体が終着駅になってしまつて、国体後のこうしたところの市民の体力づくりさらには市民スポーツ

の普及という面について、若干予算面等から下降傾向にあるんじゃないか。この点についてどのように考えておるか。前段としてお伺いしたいわけでございます。

そこで、私は館山市が柔剣道を選んだというか、背景、伝統的な今日までに至るところの経過というものがあつたわけでございませう。私はこの館山市に柔道場、剣道場等をつくつてもさしつかえないんじゃないかというふうに考えられます。これは国体をめざしてそして国体を成功させた、その成果の上に立て市民の一つの体力づくりのシンボルとして柔道、剣道場等がつくられても一向ふしぎでないと思われるわけでございます。そうしてこの国体を通じて青少年のスポーツとして柔道、剣道の建設が完成し、そうして柔剣道を通して体力づくりの一つのしんをつくつてもいいんじゃないかというふうに考えられるわけでございます。

そういう意味におきまして柔道場さらには剣道場、場合によってはこれらを含めたところの松戸の武道館のようなものを館山市においてもつくる意思はないのか、計画は持たないのか。私はこの国体を通じて、その中で市民の盛り上りの中でつくっていくことが一番好ましいというふうに考えておるわけでございますので、そうしたところの意向について御答弁をいただきたいというふうに考えております。

三番目に、館野、九重地区の耕地整理による大川の護岸工事の計画をどのように考えておるか。御質問いたしたいわけでございます。

先般の全協の中でもって御説明をいただきましたところの中央土地改良区の事業は、すでに本年からその実施に入っております。

そうしてこの館野、九重地域におきますところの耕地整理区域は三七ヘクタールに及んでおるということを伺いました。

そこで、私は質問を申し上げたいわけでございますけれども、先ほどの質問にあつたように、先般九月十五日、十六日の集中豪雨によるところの浸水被害特に濤川上流の大川、すなわち館野の稲地域はこ橋から高井に至る間の地域においてかなりひどいものがあつたわけでございます。この地域は護岸工事がされておられません。竹がぼうぼうとはえておつたり、いろんな雑木がはえておつたり非常に川の流れを妨げておるわけでございます。これが稲が流れたり、ビニールがひっかかつたりしてかなりの浸水を起したわけでございます。

特に、館野の稲、広瀬地域においては若干の浸水をもつて非常に大事に至る寸前までにあつたわけでございますけれども、この点とかみ合わせまして、この土地改良区の問題をどのように考えておるか、伺いたいわけでございます。

九月の議会の中でもって討論されましたけれども、館野、九重地区の中央土地改良区のこの事業が完成しますと、今までですと耕地整理ができてない関係でもって水はけも非常にわるい。わるいことがこの大雨等に対するところの水害を防ぐ一つの歯どめ的な役割を果しておつたわけでございます。しかしながら、この区画整理が、耕地整理ができ上りますと、あのような雨が降つた場合には、かなり水はけがいいわけでございますから、三十三数町歩に及ぶところの水が一べんに大川に流れ込むというふうに考えるわけでございます。これは耕地整理がされてない状態の九月の集中豪雨、今度は耕地整理がされた後の集中豪雨の結果とい

りものについてはどのように検討されたのか。あの集中豪雨の試練、結果というものをどのように受けとめておるか。そういうことを考えてまいりますならば、私はこの中央土地改良区の館野九重地域にあるところの耕地整理の完成と同時に、やはり大川の護岸工事というものを完成させなければならぬんじゃないか。その間にあのような集中豪雨があった場合には、やはり水はけがわるいんじゃないか。護岸にすれば非常に水の流れもよくなるし、そうして浸水のおそれもないわけでございます。

午前中の質問の中にもありましたように、この耕地整理ができて上ったために集中豪雨があり、それから河川がはんらんし、そして住宅さらには耕地に対するところの大きな被害をもたらしたというようなことが出てきた場合に、果してこの責任が市にないかどうかという問題も出てくるんじゃないかと思ひます。

われわれ議会人といえども、こうしたことの中において耕地整理、区画整理が実現することについては若干の心配があるわけでございます。私はこれはすぐにやはりこれらの問題が検討されて同時に大川の護岸工事の完成をみなければ、市の行政として大きなあやまちをおかす結果をまねくおそれが出てくるんじゃないか。

行政は、やはり結果から行なうんじゃないくて、事前にそれを防ぐというのが行政の使命の大きな問題であると思うわけでございます。この点についてあの中央土地改良区の耕地整理とそうして大川の水量の問題、それらについて検討されそうしてこの間の集中豪雨の試練をどのように生かしておるか。そうしてその計画がどのようなになっているのか。この点について明らかに

していただきたいというふうに思ひます。

四番目に、広域消防と消防団の競合で消防団の強化をどのように考えておるかという点について御質問を申し上げたいと思ひわけでございます。

政治の中において生命、財産の安全を守ることは至上命令でございます。最近非常に化学物質の普及によりまして建物も近代化してまいりました。さらには高層建築ができてまいりまして、それとともに建物の構造そのものも非常に複雑化してきているわけでございます。

こうした時代の趨勢の中において消防力の強化というものは、非常に重要な課題になってきております。そうして消防そのもののやはり近代的な革命というものがなされていかないと、こうしたところの生命、財産の安全というよりなものについても、今後問題を残してくるんじゃないかというふうに考えられるわけでございます。

そこで、私は館山市が消防署については広域消防に移してその強化をはかっていたわけでございます。そこで、私はこの広域消防の強化とそして館山市にあるところの消防団との関係がどのようになっているのか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

私は、この一、二年の趨勢の中において、どうも消防団の強化という線が手ばかりになっておるんじゃないかというふうに考えられるわけでございます。確かに広域消防そのものは規模が大きくなっております。しかしながら、規模は大きくなったということは、周辺町村の消防、防火等も行なわなければならぬという使命があるわけでございますから、広域消防そのものが充実さ

れても館山市に対するところのウェイトというものはそのままいコールするというのは考えられません。

確かに、広域消防署の本署は館山の元の消防署にあるわけでございしますから、したがって、その強化そのものが館山市にあれば、館山市はそれだけ恩恵をこうむるじゃないかという一般的な考え方はありまするけども、そうした面に目的が埋没されておるのじゃないかというふうに考えられるわけでございます。この点についての心配はないか。そして館山の消防団については強化をしていきたいということが広域消防発足のときに主張されておったわけでございまするけども、その後どのように強化されておるか。お伺いしたいわけでございます。

財政的にも広域消防に移すことによって館山の消防団が楽になるんだというような意見もあったわけでございます。しかしながら、地元消防団に対するところの負担金、消防車購入さらには消防小屋というんですか、入れるところの建物の建築、その他貯水池の建設についても依然として同じような地元負担金が義務づけられております。その負担金がおさまらないと、分団の消防をかけることもできないし、さらには消防署の新築も建てかえもできないというような状況が続いております。この点については私は非常に問題であるかと思ひます。

教育費についてはある程度の地元負担の軽減がありましたけれども、消防については広域消防を発足させたにもかかわらず、こういったところのメリットはほとんどみられないんじゃないかと思うわけでございます。こうした点についてどのように考えておるのか。どのようなメリットをもって館山の消防を強化しておる

のか。この点についてお伺いをしたいわけでございます。
以上、四点について御答弁のほどをお願いいたします。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答えをいたします。

おっしゃるように、教育の機会均等ということをはきわめて重要なものでございますが、校舎をよくすることも一つの条件であることはいなめない事実でございます。それがため、校舎も教育費には現在二八％ですか、先には一七、八％しかなかったものを二、三年の間に約三〇％近い教育費を計上するようなことに相なつたわけでございますが、現在でも神戸も鉄筋にするし、房南を建てるし、豊房の小学校も三月一ぱいにすっかりできちゃう。北条小学校もできるし、館山も本年度でできてしまふ。二中もかかれりし、一中もかかれり。とにかく急速な勢いで、勢いというところのいんですが、学校の建築について特に力を入れてやっておりますが、なんせやはり財政というものがそう豊かでございますので、思うようにいかないのが実情でございます。もうなるべく早い機会に学校を新しく生徒が勉強しやすいようにやってまいりたいと考えておるわけでございます。

一中につきましては九月市会で御質問がございましたが、一中は一番早いのは、あの土地を売ったままでやればすぐ一年でできてしまふということも考えられるわけでございますが、いろいろ一中のPTAの方々やなんかの御意見によりますと、やはり三年かかってもいいから防衛庁に頼んでりっぱな、館山小学校のよう

なりっぱなものをぜひつくってもらいたいというような要望もありまして、防音校舎として防衛庁に申請をいたしたわけでございますが、防衛庁におきましてはいろいろ書類的やなんかも検討されたわけでございまして、去る十一月下旬でしたか、防衛庁から関係者がきまして現地に行つていろいろ調査しまして、それじゃ来年度調査費を盛ろ。こういうことに相なつたわけでございまして、来年度調査費を盛つていただければ四十九年、五十年三年間で一中ができるわけでございます。

一中が第一年度の四十九年度の校舎ができたときには、やはり一カ所に集中してやらなければ授業がうまくいかないということも伺つておりますので、四十九年度の校舎ができた際に、二中のプレハブを一中に移して、そうしてあそこで授業を開始して二年度、三年度を待つ。こういうことのほうがどうも教育、学校の先生方や教育委員会の御意見では、離れてやるよりまとまつたものが多いというようなことのようにございすから、四十九年度でき上つた時点でプレハブを持つていつて仮教室としてそこでやる。こういうことでございまして、おかげさまでやはり防音校舎として防衛庁の助成によつてやるということがきまりまして、これは教育委員会とか皆さま方関係者のお骨折りでありますして、私は本当にけっこうだと考えておるわけでございます。

それから次に、柔剣道場の建設計画はどうというようなことのようにございすか、お説のように来年は館山は国体の会場として剣道、柔道、ヨットですか、これが行なわれるわけでございす。館山は柔道にしても、剣道にしても非常にすぐれておつて県内でも非常に優秀なところであるわけでございますが、こ

う機会に柔剣道場を建設することもきわめて私は意義があらうかと思ひますが、私は、今考えておりますことは、議員の皆さま方にもいろいろ検討願つてあります運動公園、これはまだ先の話になりますけれども、あれを皆さんと相談してあれを進めてその中で柔剣道場をつくつていきたい。こういうふうに考えておりますが、現在、実は市民センターも畳を敷いてあるところ、あそこで柔道をやるといふふうな考え方もつておつたんですが、柔道をやりませうんなことに使つておるわけですが、あそこはほとんどあいてゐるからやつてもいいことでございます。また市民センターの広間で剣道をやつてもいいですね。だからやろうとすればやれないことはないんですが、なおまた二中には柔剣道場を特別建設をしてやつておるわけでございますが、私は市民の健康増進のためにいろいろ健康を促進しておりますけれども、剣道については一昨年から各地に剣道クラブを結成してやつてもらいたいということで議会の皆さま方の御了承を得て道具やなんかを貸し与えてやつて、あれが最初おとしですか、九重で第一号ができて、それから北条と西岬ですか、今三つぐらいのあれができておるわけでございますが、とにかくやはり体育をいまだ市民の健康増進のためにスポーツを奨励してやらなければならぬ時期はないと思つておりますので、そういう方々に対しては市民センターでよし、二中でも相談の結果使用が可能と思ひますが、今後におきましては、やはり運動公園内に柔剣道場をしっかりとるのを建てていく。こういうことでございます。

それから、館野、九重地区における耕地整理による大川の護岸計画というふうなことでございますが、これは耕地整理のほうは

私はちょっとわかりませんが、むろん排水ということは重要なことで用排水というのは計画されておるわけでございますが、大川というのは二級河川に指定されておるそうでした、これは県が管理する。こういうことになっておるんですが、本年二月に千葉県土木委員が全県内を視察するときに、こちらにこれたときに館山市では大川の護岸をぜひやってもらいたいということを重点的に陳情したわけでございますが、これは辻田議員さんのおっしゃる様に非常に重要な問題でございまして、県にお願いして護岸をりっぱにやってもらいように、今後引き続いて要望をいたしたいと思っております。

それから、広域消防となつて消防団の強化はどうかということでございますが、本年は西岬と富崎に優秀な消防車を備えつけましたし、また西岬地区には伊戸、あのへんには積載車を新しく買ひ入れるわけでございまして、消防活動はやはり消防ポンプのいいのがなければならぬわけでございまして、そういう面でつとめてポンプのいいのを配置するように考えておりますが、全国的にみましても消防費が館山は相当予算の面では高くなつてゐるそうでございますが、いづれにしても消防は人命、財産を守る唯一の団体でありまして、これを奉仕的に消防団として活躍される方に対しては本当に敬意を表しなくちゃならぬと思いますが、それで、今年の四月から広域消防に切りかえますして、安房郡市を含めた広域消防が発足したわけでございますが、これによりまして私は大きな消防力ができたと考えておるわけでございますが、その消防団と広域消防との関係については、私は消防長にも消防署長にもよく話してゐるんですが、実はこういう話もだれかがいっ

たんですね。独立してやゝたほろがいいというふうなこともいわれたんですが、つまり団のほうは別に切り離して消防署は消防署でというふうなことをいった人があるけれども、私はそれはまずい。やはり広域消防は消防団を指導してそうして常に融和をはかつて、そうして一つの気持で火災、防災にあたんなければならぬわけで、切り離すとそこにみぞができるようなことになるから、これは館山ばかりではないですよ。館山にしても、千倉にしても鴨川にしてもやはり消防団がございしますから、そういう方々を懇切に指導して融和をはかりながら、災害に対して本当に気をそらえてやれる体制をつくつていかなければならぬというふうなことで、私も消防長、消防署長に要望しておるわけでございますが、今のところはきわめて私は順調に推移しておると考えるわけでございしますが、そういうわけで消防団の強化はきわめて重要なことでありますし、消防団は消防委員会がそういうたからそれでいいものでもない。

今後は、犠牲的に働きますから、なるべく消防団員の方々に對する出勤手当、これをできるだけ考えていかなければならぬじゃないかと考えておりますが、いろいろ辻田さんが御心配されておられることもありがたいわけでございますが、私としましては、そういう御指摘の点を考えまして十分の成果があがるように常に意を用いておるわけでございますが、また何かございましたら御指導をお願いしたいと存じます。

以上、簡単でございますが、御回答を申し上げた次第でございます。

〇九番（辻田 実君）

まず最初に、館山一中の問題について御質

問をいたしたいと思ひます。

今、市長は、防衛庁の補助が決定したというのをいわれまして、たんですけども、それはそういうことで受けとめていいでしょう。非常に重大なことでございますから。

それから、市長の答弁によりますと、四十九年からかかって三カ年計画でもって完成することになったのでということでございます。すするけども、間違ひございませんでしようか。

○市長(本間 譲君) 私を信用してください。私も市長たる以上無責任なことはいいませんから。どうぞ。

○九番(辻田 実君) それでは、それでけっこうでございます。

この間においては、防衛庁の問題等についての陳情を地元のPTAさらには学校に対して補助金をもらうために、ひとつお願いしたいというようなことで、督励も市のほうからいたしておるうちに聞いたわけでございます。しかしながら、市長がそのようにして決定したということがあれば、私はこの点については御質問申し上げませんけども、どうもいろいろとごくりさまでございました。

二番目に、柔剣道場についてということは質問でございますし、抽象的でございますので、具体的な案がないようでございますので了承いたします。

それから、三番目の土地改良区の問題でございますけれども、県に依頼していくということでございますけれども、市民にとりましてはとにかく護岸をやってもらわないと困るという切実な要望もかなりあるわけでございます。私のところにもそういうことでもって耕地整理のほうをやってもらうことはけっこうだけれど

も、水害が出た場合どうしてもらえるのか。この前でもあぶないのに、それをあえてやることについては問題があるのじゃないか。こういうことがなされておるわけでございます。

したがしまして、私は場合によれば市民のそうしたところの生命、財産そういうものを優先していくならば、私は排水路であるところの大川の護岸を先にやってそのあとに耕地整理をやるということも、人間尊重の政治の方向からいけば出てくるんじゃないか。もちろん農業優先ということであれば、少しぐらい水がはんらんして市民が犠牲になってもかまわない。こういう意向でいくならば別でございますけれども、それらの点についてあの中央土地改良区におきますところの設計と事業の実施に伴いまして、そうしてさらには九月の集中豪雨の経験等からまいりまして、先般県に対しては依頼をしたということでございますけれども、依頼をした程度でもってこれらの問題をかたづけるといふわけにはいかないだろうというふうに思います。県に依頼して県はどのような返答をしておるのか。そうしてそれらの見通しについてはどの程度の観測的な見通しがあるのか。その点についてお伺いをいたしたいと思ひます。

○土木課長(飯田治男君) 先ほど市長が申し上げましたように、県会の都市土木常任委員会の行政視察のうちに、館山としてこの滝川とこの上流にあたります山名川、この両方とも至急整備、改良してもらいたいということで陳情してございますが、今のところ県のほうから何らの連絡もございません。

それから、話によりますと、中央土地改良区のほうからこの山名川と滝川については県のほうに陳情してあるそうでございます。

す。

○九番（辻田 実君） こうした問題について地域の住民、そういう者との話し合いはなされておるのかどうなのか。そうして今後私はこの問題については今程度の問題では済まされない問題があるんじゃないかというふうに考えられます。この点はどのようになされていくのか。

私は、これらについて見通しが立つまで質問を続けていきたいと思ひますけれども、とにかく陳情してあります。したがいまし耕地整理やつかまわな。こういう筆法にはならないと思ひます。きょう具体的にこれらの見通しについての結論が出せなければけっこうでございますけれども、次の議会でもって再質問いたしたいと思ひますけれども、これは私は非常なる問題だと思ひまするので、そこらへんについて私の質問している真意についてはおわかりだと思ひますので、私は川を先にやってもらわなければ困る。こういうことでございます。

場合によっては耕地整理の場合も多少時間をみてもらってもやむを得ないのじゃないか。こういうふうに考えておるわけでございます。この点についてそこまで考えなくてもいいのか。それとも、この前の九月のあれがあくまでも異例であるということから調査、検討がどの程度なされたのか。この点をはきりさせていただきたいと思ひわけでございますけれども、ここらへんの状況を判断されまして御答弁のほどをお願いしたいと思ひます。

○農産課長（石井 謙君） 館野、九重地区の基盤整備の關係でございますが、これは中央ダムの受益地域の館山市の八二〇ヘクタールの中の一部を本年度実施するわけでございますが、その關係

もただいま御指摘の排水路あるいは河川冠水の問題等が大いに關係があるわけでございますが、この基盤整備事業につきましては県営でもって行なり事業でございます。そういうような關係で設計から全部県が行なりわけでございます。

その中で、受益者である安房中央土地改良区が今申し上げましたような關係で陳情等を行なっておるわけでございます。もちろんこの設計の中には、そうした排水關係の問題、そういうような問題も降雨量等の關係を積算いたしまして設計はなされるわけでございますが、そうした細部計画につきましては県で直接行なっておりまして關係上、私から御説明申し上げるわけにはまいりませんが、とにかくただいまの御指摘のございました排水問題というのは重要な問題でございますので、先ほど土木課長から申し上げましたように、中央土地改良区の理事長をはじめ關係役員等は数回となく陳情しておりますし、またそういうような關係の方々にもお願いしてあるということも私もよく聞いておるわけでございますが、その見通し等につきましては、現時点ではお答え申し上げる段階になっておりませんので、御容赦いただきたいと思います。

それから、住民との話し合いの關係でございますが、この關係につきましましては各受益地域の中に促進協議会というものが結成されておまして、その中に代表者の方が地区別に何人かおられるわけでございます。そういうような設計の段階あるいはまた今後等の問題等につきましては、そういうような方々によって受益者各部落ごとの座談会等を通じて説明があつたかと思ひますが、私も直接その座談会等に参加しておりません。ただ、協議会の中

の一委員として私もそれから土木課長等も参加をいたしておりますので、内容を存じておるわけでございますが、そういうような機関を通じて部落のほうには話はあったと思います。

○九番（辻田 実君）　これ、市長にお尋ねしますけれども、今の答弁の中におきましても、県が設計し、県が行なっておるので、県はそういうようなことについて当然考えておるだろう。したがって御容赦願いたい。こういう答弁でございます。容赦するとか、しないとかいうような問題じゃなくて、また県がやる、国がやる問題でもあるかもしれないけれども、しかし場所は館山市の中にあるところの市民の生活がどうなるかという問題であり、また館山市の農業、耕地がどうなるかという問題であることを考えていただきたい。

先ほどの午前中の答弁の中におきましても市長は同様なこともいっております。県会議員がやればいいとか、何がやればいいとか。館山市の問題です。館山市はその問題をどう考えるか。そうしてそのことを県なり、国に対してどうやるかという市の主体的のものが確立されておらなければならないと思うわけでございますけれども、そういう点について市がどれほど主体性を持っているのか。

また、市としてそうした行政についてやる意思がどの程度あるのか。非常に疑わしいような答弁が繰り返されておるわけでございますけれども、当然そういう問題については、私はことばのやり取りの中で出てきたことだと思えますけれども、しかし本会議でございます。ちょっとひど過ぎるんじゃないかと思うわけでございます。市としてこうした問題について、県の事業かもわかり

ませんけれども、市のものです。市民の生活の問題ですから、市として県に対するところの要望、そういうようなものについて県がやっているからというようなことでは済まされないと思うわけでございますけれども、この点についてはどうなのか。ひとつ、市長どのように考えておるのか、御答弁願いたいと思います。

○市長（本間 譲君）　お説のように市としても非常に大きな問題でございますから、この間県の常任土木委員の方たちがまいったときに、特にこれを強調して視察をお願いした。こういうわけでございますが、これにつきましては、引き続き陳情してそれが実施されるようにやらなければならぬと思っておるわけでございますが、なかなかやっても県というところはいろいろの関係もありまして、早速はいかない場合もありますけれども、私どもは熱意を持ってこれをやっていたきたい。

そういうことであるから、この間きたときに特に指摘してあそこをみてもらった。こういうわけでございます。今の場合、おれが知事であれば、やるべというけれども、知事でないから、さりとて、二級河川は県のほうでやるものをこちがやるべというわけにいかないし、またやれもしない。どうしても県の了解を得てやることを推進して実現をはかるといふことにあくまでもやってまいりたいと考えておるわけでございます。

○九番（辻田 実君）　とにかく論議は平行線だどりますので、この点については十分配慮して扱っていただきたいというふうに考えます。

四番目に、広域消防と消防団の問題について御質問申し上げたいと思います。

この点については、市長は消防力を強化してある。それとともに団の育成も広域消防の中においてやっていくんだ。こういうことを強調されておりましたので、その点については御了解いたしたいと思います。

しかしながら、私はそのものは了解いたしまするけれども、現実には館山市の地域の消防団等におきましては、そのような把握がされておらないんじゃないかという点についてどのように考えるか二、三について具体的に事例を申し上げたいと思います。

一つは、私自身の問題にもなるわけでございまするけれども、広域消防に移すときに、最後の消防委員会を開催いたしました、そして一応今まで消防署を中心としたところの消防委員会はなくなるかもわからないけれども、館山市の消防団の運営等があるので消防委員会についてはそのまま継続してひとつ協力を願いたいという形でもって、ある程度内容的な変化をもちながら消防委員会というものは移行されておると思いまするけれども、それ以後今日まで消防委員会は一度も開かれておりませんし、相談もございません。この点については、私は従来年に四回とか五回定例議会と同じぐらいの回数をもつて開かれておったわけでございまするけれども、このように消防機構が改革されていく中において、今日までそういう消防委員会等が全然開かれておらないわけでございまして、私はいつくびになつたのかどうかわかりませんが、何かそこらへんの点についてちょっと理解がいかない点があるわけでございまするけれども、この点はどうなのかな。

それから二番目には、うちのほうの館山地域の消防署の分遣所の移転、すなわち西岬の移転があつたわけでございまするけれども

当初消防署のほうといろいろと話し合いをして約束をされたようでございます。しかしながら、現実には今日に至つてもあまりスムーズには進んでおりません。その間にいろいろの事情はあつたかと思ひます。事情はあつたかもしれませんが、しかし現実にはまだ実現しておらないということ。これについては非常に私は問題があると思ひます。

それをめぐりまして、いろいろと館山地区の消防団の役員の方と話し合いをしました。しかしながら、現実にはそこの中に出てくるところの結論は、広域消防、広域消防という中にかくれて分団のことについては、非常に手簿になつたと、連携が取れないんだと、非常にわるくなつたということが出ておるわけでございます。前だと直接いろんなことがストレートにいったんだけど、何かひとつ詰まっているというところがあるということが大半の意見として出されておるわけでございます。これはもうほとんど最近まで話し合われていた事実でありますから、その点は市長が先ほど御答弁申し上げましたように、広域消防が分団を指導して、そうしてそのことによって消防力の向上、連帯性を深めていくということをお願いしたけれども、現実にはそうはいってないというふうに考えられます。

それから三番目には、財政的にもあらゆる面でもって広域消防の実現はいいということであつたわけでございまするけれども、先ほどの答弁の中に漏れておりましたので再度お願いするわけでございしまするけれども、いまだに消防車の購入さらには貯水槽の建設そういうものについては寄付を前提にしておるんじゃないか。この点については教育、消防等含んで寄付の問題については

できるだけ解消していきたいということを、解消とはいいたしませんけれども、解消していくという方向を打ち出しておるわけでございます。

現在、そうした問題については広域消防のできる前と同様の額が条件となっておるということについてどのようにお考えになるのか。決して広域消防ができたからといってそうした問題は解消されません。私はむしろ広域消防、広域消防という形の中において、そうしたところの分団の士気というんですか、そういうものが低下しつつあるんじゃないか。もうおれらは用がなくなつたんじゃないかというような傾向すら出てきておるんじゃないか。

それからまた部落、それから消防団をかかえておるところの後援会等においても地元負担金を出すためにいろいろと寄付の相談をしておるわけでございます。広域消防ができたからよかんべよということでもって、消防団の役員等非常に困っておる立場もあるわけでございます。

こうした状況について、私は決して今はいいい状態にあるとはいいかねるわけであります。その点について特に私三つの事例を申し上げましたけれども、これらの点についてどのようにお考えになっておるのか。はっきりと御答弁をいただきたいと思ひます。

○交通課主幹（岩田 実君） 第一点の消防委員会の開催がなかったということについてお答え申し上げます。

御承知のように、四月一日広域消防が発足いたしましたして、その前三月に消防委員会を開催いたしましたして、広域消防の移行についていろいろ御審議をいただいたわけでございますが、その後発足早々の広域消防のことにつきましていろいろの庁舎の建設である

とか、あるいは新採用職員等の教育の問題、そういう問題でございまして、早く消防委員会を開催いたしませんで、この点はなはだ申しわけなかつたと存じております。早速消防委員会を開かしていただきまして、その後の経過、その他につきましていろいろ御高見を承りたい。このように考えておる次第でございます。

二点の、館山分遣所の移転に伴う庁舎建設、その他でございますが、館山分遣所は昭和二十六年に開設されました、その後十二部の詰所を二十年の長きにわたってお借りしておたわけでございます。これが西岬移転につきましてには地元の御了解のもとに移転したわけでございますが、その際長年お借りしたご恩返しと申しますか、内部を改装してお返しするというふうなことで西岬に移転したわけでございますが、当初の地元の御要望と多少われわれの考え方と違ひまして、われわれは内部をきれいにしてお返しするといふふうな考え方であつたわけでございますが、その後いろいろお聞きいたしますと、現在の車でも高さの点あるいは奥行き点でもっていっぱいであるんだ。しかも来年度は新しい消防車を購入したいといふふうな御意見も出しまして、そうなれば当然庁舎の大改造が必要である。こういうことに相なつたわけでございまして、その間設計の問題、いろいろ問題がございまして遅れましたですが、先般市長の特別のおはからいにしまして大改装をして、来年度新車を購入しても少しもさしつかえないようにしたい。こういうことで近いうちに入札ということに相なつたわけでございまして、その点御了承を得たいと、このように考えております。

三点の、地元寄付金の問題でございますが、消防費の地元寄付

につきましては、過去ふりかえてみますと二分の一の地元寄付あるいは三分の一の地元寄付、四十六年度まで四分の一の地元寄付というふうに地元の御寄付をいただいておったわけでございますが、四十七年度から五分の一の御寄付をいただくというふうに相なりまして、今年度はその線でやっておるわけでございますが、財政の推移によりまして、今後私ども市長あるいは財政当局にお願いいたしまして、なるべく地元の御寄付を軽減したい。このように前向きに進んでまいりたい。このように考えておる次第でございます。よろしくお願いいたします。

○九番（辻田 実君） それらの点については時間もございませんので、再質問は省略いたしますけれども、ひとつ十分に考慮していただきたいと思います。

市長に、しつこいようでございますけれども、念を押しますけれども今消防長から御答弁ございましたように、五分の一に今年から減るそうでございますけれども、しかしながら寄付が前提条件になっておる。そういうことでございまして、それを軽減の方向に向かっているということでございまして、市長は更にこれを軽減の方向に努力する意向があるのか。むしろ早い機会に、私はできればここでもって何年間ぐらいに寄付を前提とするところのものをやめたいという答弁でもいただきたいと思いますわけでございますけれども、その点についてはどうなのか。御答弁をいただきたいと思います。

○市長（本間 譲君） ただいま消防署長の説明のようにだんだんに軽減をはかってまいったわけでございますが、まあ今後もやはりその線にそって軽減をして最後には負担をいただかないように

したいと思っているわけでございますが、やはり今まではいろいろ寄付をもらってありますから、急にやるということも片手落ちと、こわいわれると思いますが、適当の時期をみて軽減はもちろん市で買ってあげたい。そうして住民の負担をなくしていきたいと私は考えております。

もう一つは、その問題はその時限で終るわけですが、消防団の方々に對する待遇改善というほうを大きく考えていかなければいけない。何回もやりましたけれども、今年に間に合わなければ来年度、さらにその手当てですね。考えていかなければならぬと思っておりますが、なかなか両方一ちゃくというわけにいきませんが、私は団員の待遇を時代に対応したような待遇をしなければならぬと考えておりますが、今予算編成中でございますが、できれば本年度においても若干でもいいから差し上げたいと考えておるわけでございます。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 九番議員の質問を終わります。

次、二〇番議員君塚喜三君。

（二〇番議員君塚喜三君登壇）（拍手）

○二〇番（君塚喜三君） 君塚でございます。私は一点のみについてごく簡単に質問をいたします。

過ぎた九月の十五日のあの集中豪雨にあたって、官城地先豊津橋の下流七八〇メートルにおけるワールド株式会社による河川区域内における工作物が流水を妨げ、その結果が上流地区の家屋への浸水、畑への冠水という災害をもたらした事実に対して、その責任の所在と、今後本問題についてどのように対処する所存か。その見解を伺いたい。

なお、その関連として設問三点については、その後の調査、研究によって一応了解できたので、すなわち本市においては普通河川について市長の指定したものがなく、したがって河川法百条の準用規定に該当しないことがわかったので、これを省略しますが建設省所管にかかわる公共用財産であるので、これを私用として占用するについての県への許可申請書の提出にあたって、市としての意見書添付についても慎重であるべきではなかったか。もっとも、市の意見書については本問題に限らず、とかく大きなものに対してはきわめて寛大であり、小さなものに対してはきびしい。こういう声が巷間に流れており、市政不信につながることを心配するものであります。

明解なる御答弁を望みます。以上です。

(市長本問 譲君登壇)

○市長(本問 譲君) 君塚議員さんの御質問に対してお答えしたいんですが、大体お答えするようなことは御了承なさったようでございますが、普通河川については、御承知のように市は直接の責任はないわけです。

しかし、それを使用するとか、いろんな場合については意見書をそえてやることが多いわけですが、今お話しのように大きいものには寛大で、小さなものは厳格だなんて、そんな裁判所や警察みたいなことは私は絶対いたしません。市民は全部平等ですから、市民を尊重することは平等ですよ。その基本線に立ってやりますから、あなたが御心配なさるようなことは決していたしません。ありましたら指摘してください。いや本当に。私はそんな意思は毛頭ないです。

大きいから、だからといって寛大にやり、小さいからやかましくやっていじめるなんて、市長としてそんなばかなことはできませんよ。

私は、市民は全部平等と思って、そのときの状況によって、こういうことをやられては困ると書いてやりますけれども、県のほうは困るといっても許可する場合がありますからね。全くどうも県の連中はふしぎなところがありますよね。まあ許可権は向こうにあるから、市のほうでは反対すべきものは反対と書いてやりますからね。ぐあいかわる点があつたら君塚さんおっしゃってください。手直しますし、検討しますから。本当に。

そういう人をみて差別したりなんかする、絶対私としてはいたさないことでございます。いやしくも市長たる以上、私は堂々とやっていきたいと、わるいはわるい。いいはいい、おれがいけないというなら、そのかわり正しくどこからきてまいじょうぶだ。こういう信念を持って毎日市長として過ごしておるわけでございますから、その点もちよつとそれまして申しわけないですが、ぐあいがわるい点がありましたら、事例をあげて御指摘をいただいでください。どうも。

○二〇番(君塚喜三君) 一番最初の問題に対して何ら回答がないんですが、おつて私のほうから再質問の形において質問を行なつてまいりたいと思います。

では、ただいま御質問申し上げました豊津川、これは普通河川でございますが、市長の指定河川ではございません。したがって、これは建設省所管にかかわる公共用の財産である。こうい

う形になるわけでございまして、これを私用として占用する場合においては、これは占用許可の許可願いというものが県に出されるわけでございますけれども、これについては市の副申がついたはずであります。この副申は一体どのような副申をおつけになりましたか。まずその点からお尋ねいたします。

○土木課長（飯田治男君） 申請が出ましたときに、私がその申請書を扱いました。全部流量計算を添付されて、話によりますとその流量計算は県の技術屋に計算してもらったから間違いないというのを相手方は申されました。

私は、とにかく今まで後背地にあれだけの山があるのだから相当の水量がくる。もしこういう工作物をして水がはらんしたときには、おたくのほうで責任を持ってもらえますかと、私ははっきり念を押して聞きました。そうしたら、相手方はそのときにそういった補償はするというのをはっきり私に申されました。

私のほうでは、それだけお聞きすれば、一応むこうからも副申書もつくって持ってきてまいりまして、その文面をお読みいたします。「館山市宮城千八十九番地ワールド産業株式会社社長佐久間庄一より申請の公共財産占用使用及び土木工事施行許可申請に対し、調査の結果、支障ないと思われるので、特別の御詮議をもって御許可くださるよう副申いたします。」という副申書を持ってこられました。

私は、そのあとで県のほうにその旨全部お伝えしてあるわけですから、県ではこれは許可を出しておりません。

○二〇番（君塚喜三君） 市としても流量検査もし、立ち会ってこの副申がなされた。こういうふうに取りなすわけですが、そ

うしますとあれですか、あの直径二メートルのヒューム管をいけて河川を埋めてしまった。これはその目的とするところは宅地保全及び通路のために暗渠、埋設こういう目的のために申請がなされておるわけですね。そうすると、その直径二メートルのヒューム管を入れて河川を埋めた。これをもって支障がないという判断は、これは県がやったことであって市では全然これには関知してない。こういうことでございますか。

○土木課長（飯田治男君） 申請書のうしろに流量計算書といたしまして、降雨七〇ミリということで計算書がつけてございます。この前のあいつた豪雨の場合には相当量の雨が降る。こういった計算では最近十カ年間とか、二十カ年間とかいう降雨量の平均値を取りまして、その最高六三・八ミリというものがここに書いてございますが、それにさらに安全値をみまして七〇ミリということでこの計算書は計算されております。

それで、私のほうではその後土木事務所のほうに話しまして、こういったものとかくあそここの水がはける場合は計算上ははける。計算上ははけるかもしれないけれども、実際の問題からいって前のほうで水はオーバーして両側の田んぼ並びに宅地に突進することはわかるわけです。

そこで、土木事務所のほうにお話しいたしましたして、土木事務所のほうは全然許可を与えておりません。あの問題があったときに私はすぐ土木事務所のほうに問い合わせたわけです。そうしたらやはり土木でも許可は与えてない。こういう返事でございます。

○二〇番（君塚喜三君） そうしますと、許可を与えてないものが今まで放置されておるわけなんです、これは撤去しがもこれに

は誓約書が入っておりますね。次のような誓約書が入っております。「私儀、出願の占用につきましては県指示を固く厳守し、使用目的以外には用途を変更し、または他人に貸与いたしません。御指示があればいかなる理由がありましても現況に復してお返しいたします。もし背反しました場合には、いかなる御処分を受けましても異議は申しません。ここに保証人連署の上誓約いたします。昭和四十五年三月」保証人といまして石井 博という名前がありますけれども、この誓約書からいけば当然これは撤去させてもいいはずでございますが、これについて当然県の権限であろうかと思ひますけれども、実際に被害をこうむったのは天災ならいざ知らず、人災によって被害をこうむって、館山市民の何人かがその被害をこうむっておるのでございますので、市としてもっと積極的にこのような処置を県に対して要請すべきであると思ひますが、この点についていかがでございますでしょうか。お尋ねいたします。

○土木課長（飯田治男君） 国有財産管理事務の手引きということ、千葉県土木管理課でこういう手引きができておるわけで、私らのほうの行政指導といたしましては、建設省の行政財産特別法道路法、河川法等の適用を受けてない認定外の道路とか、普通河川等については全部土木事務所が管理しておることは、そちらの御説明でもわかりますけれども、私も再三土木事務所にこういう点では今まで話し合ってきたおるわけです。

結局、私らがいつても土木のほうからこういった施主のほうにはっきりそういった通知文が出なければ、いつまでたってもこれは解決しない問題だと思ふんです。私らは今後こうした問題につ

いてはもっと積極的にどんどん土木事務所のほうにぶつかっていくつもりでございます。

○二〇番（君塚喜三君） 私といましては県会に早速反映させていく方針でございます。

しかし、なぜこのような質問を出したかという経緯についてちょっとお話し申し上げておきます。

過ぎた十月十四日この問題に関する地元民六名が、その善処方の要請に市役所にきました。小林行政相談員を入れて土木課員とどなたかは知りませんが、土木課員と談合した。その回答は、市に関係ないから県の土木課に行ってくれ。しかし県の土木に行けば市に行ってくれと必ず行けといわれますよと、こういうことをいわれた。土曜日で時間もないことであつたので、むだを知って行くこともないだろうということで、たいへん不満のうちに帰ってきたという、こういう訴えが私のところにきたわけです。したがって私はここにこの問題を取り上げたわけです。

全然関係がないということでは私はないと思つたわけです。ということとは副申をつけて特別の詮議によってこれを通過させてくれという副申書がつけられている以上は、市に責任がないとは私はいえないだろうと思ひます。しかも市民のことなんですから。

それから、先ほど市長さんのおっしゃいましたことについて、それじゃ言及いたします。これは関連としてお尋ねをするわけなのでございますけれども、西川名の鈴木達蔵さんこれは川端旅館これが同じような普通河川の上に増築をしました。市は四十六年五月二十九日に受け付けております。確認が四十六年七月三日完了四十六年十一月十九日、これに対しては市はいかなる意見書

を添付されたか。お尋ねをいたします。

○土木課長（飯田治男君） 確認申請書には意見書というものはつけません。

確認申請のことにつきまして御説明申し上げます。建築基準法第六条は「建築主は、法令に規定する建築物を建築しようとするときは、確認の申請書を提出して建築主事の確認を受けなければならない。」と規定されております。

本来、建築主が直接建築主事を置く県、特定行政庁に確認申請書を提出することになってはいるんですが、確認許可をする場合、その建築物に対しての消防長の同意が必要であります関係上、県で受け付け、市の消防に返送するよりも順序として関係市町村で受け付けたものを消防署に送付し、消防署の同意を得たものを県に回付したほうが確認事務がスムーズにいくということでそのような取り扱いをしておるわけでございます。

○二〇番（君塚喜三君） 私の聞こうとするのは、確認そのものではなくて、やはり普通河川の上に増築しておるんですね。いわゆる公共用財産を私用として占用しておる。したがってそれについての占用許可願いというものが、許可申請書というものが市を通して県に出されておるはずなんです。

だからその際には、市の副申が前と全く同じだろうと思うんですよ。これはワイルドの場合も同じだと思います。それについての副申はどのような副申がつけられたか。私はお尋ねしておるわけです。

○土木課長（飯田治男君） あの河川については占用の許可申請は出ておりません。

○二〇番（君塚喜三君） そうしますと、あれは占用許可もなくして無断であれを使用しておる。こういうことになるわけですね。

それでしかもそれに対してもうすでに営業がなされておるということは、営業許可も出、建築許可も出ておるといふうに解釈していいんですか。その点非常に私たちどうもわからないんです。

○土木課長（飯田治男君） 地元からそういった点について要望が出まして、私どもの前課長が土木事務所の管理課長と現地で立ち会って現地をみてございます。

だから、その後土木事務所がどういう措置をしたか、まだその点についてはうちのほうは連絡がきておりません。あくまでも土木事務所の管理課長が現地をみておりますので、土木事務所が今後の措置をするものと思われまます。

○二〇番（君塚喜三君） さらにもう一点事例としてあげます。

これは自然公園、国定公園内の特別地域に建設されましたところのホテルの崎、これは田辺定吉さんのホテルでございますけれども、これは自然公園審議会にかけられたそうでございます。それでその結果、最初の設計四階を三階にし、そして上を展望台に改造しろという条件をつけて審議会は通ったというふうに伺いました。

しかし、これに対する建築許可の問題なんですけれども、それに先立ち、私たちは農地の転用ということが問題にしろるかと思えます。ということではですね。あの敷地内には他人の土地が入ってある。それがまだ同意をいたしてない。したがって所有権の移動というものが確立されていないわけです。そういうものに対して農地転用ということが果して可能かどうか。

さらには、その農地転用がなされていないところに建築を許可するということも、これまたおかしい話であって畑の上にホテルが建つておるといことになるわけですが、これで許されるとすれば、われわれはなにも宅地転用なんかして税金をたくさん取られることはないと思います。畑のままで家を建てておけばいいということになるかと思いますが、この点ひとつ御解明いただきたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） ホテル洲の崎の件でございますが、市で受け付けてまして、国定公園の関係がございましたので、一応私どものほうで申請書は保留しておきました。

そうしますと、県のほうでそのあとの処理をするから早く回らすようにという連絡がございましたので、私どものほうはすぐ県のほうに回わしました。

それから、参考のために申し上げますけれども、確認申請を受け付けた段階で他の農地法とか、そういう関係はチェックいたしません。確認申請の場合に自然公園法または都市計画法に基づいての自然公園法の区域内にありますれば、自然公園法の手続と一緒にしなければならぬ。それから都市計画法に基づきますのは、都市計画の計画施設ですか。計画道路の中に建物を建てるとかいうような場合には、やはり県知事の承認を受けなければならぬということ、一応都市計画街路そういった都市計画施設についてのチェックと、それからそういった国定公園区域内であるかどうかというチェックだけをいたしまして、私どものほうは消防署を経て県のほうに回付しているわけでございます。

○二〇番（君塚喜三君） 私も三年ほど前に貸家を建てた場合には、

そのうち転用の許可書ですか、これを添付するようにという要請を受けた記憶を持っておるのでございますが、これは畑に対してでも建築許可申請というものは、そういうものを無視して出さんでいいのですか、再度これをお尋ねいたします。農地委員会いかがでございますか。

○農業委員会事務局長（岩崎一郎君） 確かにおっしゃるとおり建築基準法にはないかもしれませんが。しかし私どものほうといたしましては、無断転用の事例となるので、できるだけ横の連絡で係同士でそういう場合おかしものはチェックして私のほうに連絡願いたいということで、横の連絡で現実に皆さんに適法になるように指導はしております。

それから、先ほど洲の崎ホテルの場合、売り方、買い方合意の上で申請行為がなされます。したがって、合意に達しないものは申請はできません。したがって転用の許可はあり得ないわけでございます。

○二〇番（君塚喜三君） そうすると、洲の崎ホテルについてはすでに転用許可もあり、現にもうこの夏から営業もいたしております。そうしますと、これに対して消防署にお尋ねをするんですが消防署としてこれに対して調査をなさいましたか。洲の崎ホテルに対して消防署として調査をされたことがございますか。

○交通課主幹（岩田 実君） 先ほど土木課長から申しましたように、消防はあくまでもその建築物に対する消防の見地からの同意でございます。現在一般住宅のようなものは書類審査をもって同意をいたしております。ただし、洲の崎ホテルのような旅館、ホテルといったような一定規模以上の高さ、私のほうでは防火対

象物と申しておりますが、それに対しては現地にまゐりましていろいろ消火設備、避難設備、その他の消防関係の設備につきましてチェックいたしまして、これに対して同意を与えます。

〇二〇番（君塚喜三君）　そうすると、ホテル洲の崎に対しては同意を出したということでございますね。

〇交通課主幹（岩田　実君）　私どものほうはその建物が消防法、その他に基づく消防の見地から立ってさしつかえない。こういう建築物であるならば、これを同意しなければならぬということになっております。同意を与えております。

〇二〇番（君塚喜三君）　そこで、私は元に戻るわけでございますが、これらはすべて同意ないままに建ててしまつた。洲の崎ホテルにいたしましたも確認がなされてから建てるものです。ところが四十七年四月二十七日に確認を受けて、それらが四十七年六月二十六日、あれだけの大きな建物が二カ月でできちゃっているわけです。考えられないようなことですな。

しかも、川端旅館については占用許可も取らないままに、もうすでに営業をやっておるわけなんです。このようにああいふ大きなものに対しては非常に寛大ではございませんか。それに反しまして民宿等につきましてはきわめてきびしい。無届で営業をやつたというんで停止をくらつたり、非常にきびしい態度を取つていらつしやるじゃございせんか。

だから巷間では大きいものに対しては寛大だ。つくるだけつくつてしまえばあとは何とかなるんだ。有名人を使って裏から工作すればなんとかなるんだという、動いたという裏話もわれわれは耳にしておるわけなんです。そういうことでは市政に対する不信

というものが出てくるんじゃないか。これ以上に心配するわけでございます。

ともあれ、ワールド産業につきましては、目的に現状としてはそつてないということは、あのような災害これは特別の例といわれるかもしれないけれども、あつたことは事実なんです。あつたことが事実とするならば、今後あり得る可能性があるということなんです。ないという保証はできないはずで。来年度あるかもしれない。あれ以上のものがぐるぐるかもしれない。だとするならば、これは早くこの善処方をお取りはからいたいと思ふわけなんです。

また、あの目的からは、あのヒューム管をいけてその上を埋めてしまつた。そうしてあの上にはプレハブが建っております。これはおそらくその先の鉄骨家を、これも聞くところでは無届と聞いております。大きな鉄骨が建ちかけてそのまゝになっております。これも工事の飯場であつたろうと思ひますけれども、これはすでに倒れかかつておる。そういうものが上にのへかつておる。あるいはこの申請の目的からするならば鉄骨ハウス、鉄骨の家屋への通路であつたかと思うのでありますが、あのような経営状態から現に県のパトロールによつて撤去方が要望され、申し入れられたというようなことも耳にいたしておりますが、それらは別といたしましても、市としてぜひとも強くこの点県に対して要請していただきたい。このことを要望いたしまして私の質問を打ち切ります。

〇議長（吉田勇治郎君）　二〇番議員の質問を終わります。

次、二番議員林　豊君。

(二番議員林 豊君登壇 (拍手))

〇二番(林 豊君) 私、次の二点について質問をいたします。
なお、質問に先立ちまして、先に通告申し上げました質問の要旨においてはその内容が重複する点もあり、またその項目においても前後するものがあるので、次の二点に要約をして申し上げます。

その第一点は、館山市都市計画と道路網の整備及び安房中央土地改良区整備事業の關係でございます。

わが館山市においては、去る四十四年度に都市計画というものが樹立をいたされまして、将来の館山市の町づくりをいかにするかというおおむねのビジョンができております。もちろん当時の構想と現状とでは著しく差異を生じてまいりまして、これを組みかえなければならぬことは疑い余地もありません。したがって、当時考えたものと今の情勢等を比較いたしますときに、思ひもよらぬ情勢が現在生じておると存じます。

最近、市街地の発達に伴いまして、周辺の郊外の住宅化も順調に進みまして上野原、高井あるいは正木、湊地区と日に日に新築家は建てられております。

また、このときあたりまして、農業振興地域の整備計画も打ち立てられて、せんだってわれわれ全員協議会におきましても検討された上、農用地域の指定も行なわれる一方、東部土地改良区においても基盤整備がこの十二月中旬より着工の運びとなっております。続いて西部改良地区においても計画着工の予定と伺っております。

また、国道一二七号線バイパスも当局の絶大なるお骨折りと御

配慮によりまして実現の運びとなつてまいりましたが、しかしながらこのような計画をよそに、国道一二八号線の沿線には次々と工場、住宅が建ち並び、南町より上野原、国分に至る間にはほとんどあき地がないというのが実情であります。

このような状態では、いかにりっぱな将来の計画を樹立するともその実現はとうていのぞむべくありません。

また、さきに申し上げましたとおり、東部土地改良区の三芳村池の内より江田、広瀬を通して稲地先に通ずる主要幹線道路七メートルの道路も稲地域が地区外となったために、一二八号線に接続する約五〇〇メートル近くの間は全く道路新設の見通しはついておりません。

さらに同じ東部改良区でございますが、広瀬部落に隣接する三芳村本織はすでに昨年度基盤整備事業を終了いたしましたけれども、その境界線付近すなわち字下法久を東西に走る七メートルの主要幹線が建設され、私は昨年この状況をつぶさに踏査するよう関係主管に要望しておきましたけれども、これがために一部館山市内に耕地が入り込み交錯をしているために本年度の基盤整備事業に大きな支障をきたしております。

ひいては、先般来るる皆さま方の問題点となっております排水工事も著しく困難にされておるような状態でございます。これはことごとく行政の無計画に一任するものと断ぜざるを得ません。市当局は、これらに対しましていかなるお考えをお持ちですか、またバイパス線の建設等にあたり、市開発公社におきましては、土地の先取等について対応策を考究されたことがありでしょうか。お伺いいたします。

第二点といたしましては、土地乱開発と館山市総合観光開発についてであります。

日本経済の急速な発展が生んだところの土地開発ブームにのりまして、この南総におきましてはその激動が押し寄せ大手企業が南総の土地を開発するため虎視眈々とねらっておる様相であります。そうして館山周辺の山々も次々と物色しつつあります。

すなわち九重、館野あるいは西岬の山林地帯を大規模に買収せんとする交渉におおわらわと聞いております。

もちろん、市の観光開発にとってこれらの地所は必ずしも死守すべきものではないと私はかように考えますけれども、むしろこれを利用して市の観光発展に一大活源を与えるべきであるとも考えられます。

しかし、西岬地区においてはすでに市が建設に着手いたしました自然休養村の関係もあり、あるいは市が計画した運動公園等の関係等もあり、これらの土地の開発は非常にむずかしい問題でもあり、慎重を期すべきものと考えられます。

また、館山市の観光開発をその地域性から考えますと、西岬、神戸方面の西南の方面にのみ重点が施行されておるといふことも考えられる。豊房、九重方面あるいは那古すなわち市の東北方面の地帯は過疎的なハンディを背負っておりにも思われます。

そこで、これら大手企業の土地開発に便乗して観光農業の開発はどんなものでしょうか。さきに市の農業委員会は昨年、今年とも観光農業の研修視察のために静岡、四国方面に旅行をしたと伺っております。これらの点についても市は積極的に研究なさってこれが実現を期すべきであると思います。これらを総じて、市は

観光の開発にあたりましてすみやかに周辺の土地資源をつまびらかに研究をし、最も効果的な計画を打ち出し、これに即応したところの百年の計を樹立するよう努力すべきであると私は考えます。市長のお考えをお尋ねしたいと思います。

以上、二点についてお尋ねをいたします。

(市長本問 譲君登壇)

○市長(本問 譲君) 林議員さんの御質問にお答えいたしたいと存じますが、あまり規模が大き過ぎてどうもいい答弁ができるかどうか心配しておるわけでございますが、館山市の都市計画につきましては、おおせのようにあとわずかになっておるわけでございまして、しかしその計画を立てた当時と現況は非常な相違があるわけです。

ですから、私は現在の情勢と将来を見越した計画を樹立すべく企画のほうに陣容を立て直してそして進めていきたいと考えておるわけでございますが、お話しのように今九重、館野地区近くはそのへんでも大きく土地買収者が入り込んでおります。それからそのほかにもあると思いますけれども、これらの人に対してはいずれ市のほうに計画をもってこなければならぬと思いますが、いずれにしても現状をあまり山を裸にしたり、えらいがけをつくったりするような開発方法はもちろん賛成できないし、また地元の方々の意見も聞いてこれをやらなければならぬと思いますが、とにかく最近の情勢はいろいろ急激な変化をしておるわけですが、よほどやはり考えていかなければならぬと私は思っておるわけでございしますが、いろいろお話しもございましたが、農業の道路の隣接の町村との関係とか、いろいろのことも、ついでに土地取得

交渉とかいろいろ考えなければならぬわけですが、それらにつきましては関係機関の方々の意見を聞いて支障のないようにこれからやってみようという存じます。

また、開発公社が道路網のできるについて、先行取得ですかをしてあるかどうかというようなお尋ねのようでございますが、あれがまだ本格的にきまったわけでもございませんし、まだそこまでは開発公社はやっておりません。しかしこれは放置するわけにいかないわけでございまして、関係者とも相談してとにかく道路にする地所だけは少なくともなるべく安い価格で買ってあげなければいけないと考えておるわけでございますが、現在は開発公社のほうではそういう取得をいたしておらないわけでございますが、いづれにしても、基本的な考え方はやはり土地開発館山市の都市計画、振興計画これになるべく早く立て直しをしてまいりたいと考えておりますが、林さんにお答えするようなことでなく恐縮でしたが、お話し筋は私も承知しておりますから、林さんの御質問の線にそってこれからも十分検討してまいりたいと思います。

○二番(林 豊君) 具体的なことについて二、三再質問をいたしますけれども、先ほど申し上げました一二八号線に接続する土地改良区内の道路でございませけれども、せっかく山名川に接続するところまでは改良区において工事を実行するわけでございませ。したがって、稲都の池の内方面を走る県道と一二八号線が連絡をするということで非常に重要な私は主幹道路であると考へるんですが、山名川から南の一二八号に至る間は稲の地域でございまして地域外になるわけでございます。

しかしながら、これは県道でも市道でもございせん。いわゆる農道でございませので、これが将来主幹道路として利用をされるというような場合になりますと、あくまでも編入をされるわけでございませうけれども、これが利用度からすれば接続点を道路の完成とともに交渉をしていただいて、そうしてつくっていただくということが私は一番いいことじゃないかと思ひます。そういう面での道路に、市道に編入をされた場合、さきのこれらの土地を市において買収もしくはそういうふうな形で市道をつくっていただくのかどうか。この点についてちょっと伺っておきたいと思ひます。

○農産課長(石井 謀君) 御質問の今度基盤整備します要するに区画整理します計画の中で稲都山名川の近くから館野地区の稲に通ずる幹線道路が計画されておるわけでございますが、その一二八号線に接続する地域の稲がその区画整理の対象地から除外されておるわけでございますが、その用地の確保につきましては農振法の関係でまいりますと、それを農用地から除外した場合には補助事業がつかなくなるわけでございます。そういうような観点からこの区画整理事業というのは県営事業であり、補助事業でありますので、そういうようなからみ合いとの関係で私どももその点について苦慮いたしておるわけでございますが、たまたま計画が線引きができておりました、該当する土地の所有者がはっきりわかっております。その方々とよく相談いたしまして、その道路がつく部分について農用地除外を一応話し合いの中ではまとめていきたいというふうに考えております。そういうような話し合いを土地改良区と一応話し合っておるわけでございます。

〇二番（林 豊君）

ただいまの農産課長さんの発言は了承いたしましたけれども、いま一つ三芳村の本織付近でございすけれども、七メートル道路が東西に建設されるわけでございす。これが広瀬と三芳村を区画しておるわけでございすけれども、われわれの館山市の中に三芳村の鍛冶ヶ作という地名の大字が入ってき、われわれのほうの下法久という小字と交錯しておるわけでございすけれども、われわれのほうは安房中央土地改良区の管内でございすので、水利は当然中央ダムということでございますけれども、むこうの鍛冶ヶ作というのは三芳村の水利関係の海老敷の第一ダムを使用しているという関係で、水利と排水というものがうまくいかないということで、もう一べん基盤整備ということとは二重の負担になるからできない。こういうようなことでこの排水やら水路やらは非常に支障をきたしておるわけでございすけれども、なかなか政治的な折衝でないとできないと思いますので、ここらはひとつ農産課のほうにおいてむこうの耕地整理組合と交渉をもっていたらどうか。その点お伺いしたいと思ひます。

〇農産課長（石井 謀君）

その点につきましては、これは当然隣接でございすし、水利関係あるいは道路関係等も大いに関連がございすので、そういうような点につきましては、十二分に関係土地改良区あるいは組合等とも連絡をいたして、その関係者同士の計画が万全を期するような努力をいたしたいと思ひます。

〇二番（林 豊君）

それから先ほど申し上げました観光農業でございすけれども、私にか我田引水的に東北の方面にその重点が施行されていないかと申し上げましたけれども、

平砂浦の開発であるとか、自然休養村であるとか非常に西部のほうには大きな観光対策が打ち立てられておるようでございすが、先ほど申し上げたとおり、東北部のほうにおいても市の農業委員会でもって研究をされております観光農業が発展ができるような施策を研究をしていただきたい。かように考えますけれども、市長さんのお考えをお尋ねします。

〇市長（本間 譲君）

お話しのこととはよくわかります。なるほどこれは地理的の現況からして南のほうに手が伸びるということはやむを得ないことでございすが、やっぱり今後は館野とか、九重地区の開発について考えていかなければならぬと思ひますが、この方面の住民の声を聞く会に私も行きましたけれども、まず何としても基本的なものは水道ですよ。やはり九重、館野地区は水源がございすから、簡易水道をやれば十分と思ひますが、何にしても住宅を持っていくにしても、何にしても水ということを入れても今はいいから、また軽工業にしても何にしてもやはり水がないと基本的にはいけない。館野地区のほうはこちらのほうは電話が引かれてたいへんけつこうなことでございすが、農業をやるにしても、何にしても私は簡易水道をやたらどうかと思ひますが、そのほか観光農業としていろいろ検討して、やはり現在は畜産、草地造成とかいろいろやっておるわけでございすが、農産課のほうでも検討して観光農業のことも太いに検討を加えていかなければならぬと思ひますので、林さんの御意見を太いに尊重してこれからやってまいりたいと思ひます。よろしく。

〇二番（林 豊君）

了承いたしました。質問を終わります。

散

会 午後三時二分散会

○議長（吉田勇治郎君） 以上により通告者による一般質問を終わります。

よって、本日の会議はこれにて散会といたします。次会は明十二月十五日午前十時開会といたします。その議事は、初日の会議で説明の終わりました各案件の審議を行ないます。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般質問

